

3 張宗昌挙兵問題

773 昭和4年1月4日 田中外務大臣より
在上海矢田総領事宛（電報）

日本の張宗昌援助説は全く無根なる旨通報

本省 1月4日後6時発

第二号

貴電第一号ニ関シ

王正廷ノ所謂張宗昌援助説ノ如キハ全ク無根ニシテ当方ニ
斯クノ如キ意嚮ナキハ云フ迄モナキ所ニシテ現ニ十二月上
旬渡日セル吳光新ヨリ張宗昌ガ其ノ亡父ノ遺骨ヲ携ヘ山東
省掖県ニ帰葬スルニ付大連青島、濰県經由ノ旅行上ノ便宜
供与及保護方次官迄願出ノ次第アリタルモ

我方トシテハ目下青島其他膠濟鐵道沿線ニハ南北系何レノ
者ヲモ入レサル方針ナル処張宗昌帰郷スルニ付テハ必スヤ
同人ニ關係アル旧直魯軍系ノ人物モ附随スベキノミナラズ
現ニ直魯軍閥ガ山東雜色軍ヲ招撫シ再起運動ヲ試ミムトス
トノ風説伝ヘラル、折柄ニモアリ万一葬事ニ事寄セ彼等一
味ニ何等策動ノ機会ヲ与フルコトトモナラバ我方針ニ違背

スルコト、ナルノミナラズ南方側等ニ対シテモ我方ノ態度
ニ疑惑ヲ抱カシムル虞アリ旁々嚴正中立ヲ確守シ来レル我
方ノ立場上右願出ヲ許諾スルコト困難且不利益ナルベキ旨
ノ在青島総領事ノ意見ヲ容レ当方ニ於テハ体良ク断リタル
位ナリ又吳光新莊景珂等ニ対シテハ何レ方面ニ於テモ真面
目ニ取合ヒ居ラサル次第ナリ御含迄
北京ニ転電セリ 南京ニ転電アリ度シ

774 昭和4年2月(8)日 在旅順木下関東長官より
田中外務大臣宛（電報）

張宗昌一派並びに在在連中國亡命巨頭等によ
る共和大同盟組織に関する吳光新の談話につ
いて

大連 発

本省 2月8日前着

第二一号（極秘）

貴電第二〇号ニ関シ本年ニ入り張宗昌一派策動ノ情報頻リ
ニ接到スル折柄吳光新一月二十三日帰連シタルヲ以テ客年
往電外第六五号ノ次第モ有之ニ付同月二十六日中島翻譯官

ヲ吳光新ノ許ニ派シ最近張宗昌一派並在大連支那亡命巨頭
連ノ行動ニ付種々ナル報道ヲ耳ニスルニ付テハ此ノ際差支
ナキ範圍ニ於テ真相ヲ関東庁ニ伝ヘ置カル方却テ得策ナル
ヘク然ラスムハ関東庁ハ其ノ接手セル情報ノミヲ基礎ニシ
テ自ラ適當ト思惟スル措置ニ出ツルコトアルヘント申出テ
シメタル処吳モ其ノ意ヲ諒トシ兩三日中ニ自ラ関東庁ヲ訪
問シ委細申述フヘキ旨答ヘタリ然ルニ其ノ後一向来庁セス
一方ニ於テ張ノ行動ニ関スル報道一層頻繁且具体的トナリ
タルヲ以テ督促ヲ加ヘムト考ヘ居ル矢先ニ貴電御来訓ニ接
シタルヲ以テ更ニ中島ヲ派遣シ来庁ヲ促シタル結果二月五
日莊景珂ヲ帶同来庁シタルヲ以テ目立タル場所ニテ三浦
及中島ト会见セシメタルカ約三時間ニ亘リ在大連亡命巨頭
ノ代表者トシテ吳ノ述ヘタル要領左ノ通

来ル三月十五日南京ニ開催セラルヘキ第三次代表大会ハ必
ス国民党内左右兩派ノ決裂ヲ招来シ其ノ結果蔣介石倒レ汪
兆銘及馮玉祥等ノ極左派力擡頭シ来リ滿地紅旗ノ暗示スル
カ如ク民国ハ全ク赤化スルニ至ルヘキハ現時ノ状勢ヨリ判
シテ殆ト之ヲ疑フノ餘地ナキ今日既ニ国民政府虐政ノ下ニ
呻吟セル我同胞ヲシテ更ニ赤化ノ慘禍ニ沈淪セシムルカ如

キハ天下人心ノ坐視スルニ忍ヒサル処ナリ今ヤ国内一般ノ
識者ハ此ノ際段祺瑞ヲ中心トセル我党力救国救民ノ為再ヒ
蹶起センコトヲ翹望シツツアリ茲ニ於テカ我等ハ国家臣民
ノ為ニ一切ヲ犠牲トスルノ覚悟ヲ以テ現政府ニ反対セル各
派憂國ノ士ヲ糾合シ共和大同盟ト称スル一団体ヲ組織スル
コトニ決シ過般来其ノ宣言書ヲ各方面ニ頒布シ(一)真正共和
ノ回復(二)民主立憲ノ実行(三)五色旗ノ擁護(四)一党專政ノ排除
等ノ四大政綱ヲ掲ケ敢然左ノ通現政府反対ノ態度ヲ明カニ
スルト同時ニ広ク全国ニ同志ヲ求メ内々現政府打破ノ陰謀
ヲ開始シタルカ幸ニ一般人心カ国民党ノ暴政ニ愛想ヲ尽カ
セル折柄各方面トモ我等ノ共鳴者排出シ豫テ国民党ニ懺焉
タル諸派ノ人物ハ何レモ我同盟ニ参加ヲ申越来レリ即チ
(一)西南方面ニアル吳佩孚ハ遠ク代表ヲ当地ニ派遣シ来リ我
方ト合作ヲ申越シ来リ其ノ他楊森、鄧錫侯、劉存厚、賴
心輝、田頌堯等四川軍閥ノ巨頭連ハ何レモ同盟ニ参加ノ
約アリ廣西派ノ李宗仁、李濟、白崇禧モ我方ニ聯絡ア
リ

又廣東ノ陳炯明ハ先頃来連シ廣東東部ニ於テ旗揚げニ関
シ我等ト打合ヲ為シツツアリ陳ノ旧部下軍隊ハ今尚廣東

ノ東部地方及福建南部地方ニ駐劄シアリ陳ノ帰南ヲ俟チ
拳兵ノ答ナリ

(二)北支方面此ノ方面ハ由来我等北方派ノ根拠地ナルヲ以テ
到ル処我同志アリ京津方面ニアル軍隊ハ我旧部下多ク何
レモ内々聯絡アリ我方ノ旗揚げト同時ニ響應スル内約アリ
殊ニ閩錫山及商震ノ如キモ豫テヨリ我等ト或種ノ了解
アリ唯閩ハ元來小胆者ナル為積極的行動ニ出ツルコトヲ
躊躇シ居ルモ我等カ旗揚げノ際ハ之ニ跟随スルコトヲ既
ニ内諾シアリ彼ハ目下南京ニアリ国民政府ニ柔順ノ態度
ヲ示セルハ一時仮面ヲ被レルニ過キス將來馮軍カ北進セ
ムトスル場合ハ閩軍ヲ以テ京津方面ノ守備ニ当ラシムル
訳ナリ

(三)旧国民党員中ニアリテモ夙ニ現国民党ニ愛想ヲ尽カシ我
等ニ共鳴スルモノ尠カラス当代ノ文豪章炳麟ノ如キ其ノ
一人ナリ彼ハ先頃公然南京政府反対ノ意見ヲ公表シ去月
末彼ハ上海ヨリ東京ニ赴ケルカ日本ニ於テ国民党攻撃論
文ノ印刷物ヲ發表シ之ヲ本国ニ頒布シ反国民党ノ空氣醸
成ニ当ル筈ナリ

(四)支那全国ニ亘リ偉大ナル勢力ヲ有スル国家主義青年団ハ

シ其ノ他ハ坊子濰縣方面ニ向ケ前進シ濟南ト青島ノ連絡
ヲ遮断シテ日本ノ撤兵ヲ餘儀ナクセシムルト同時ニ膠東
一帯ノ地域ヲ其ノ手ニ収メント企図シツツアリト謂フ我
等ハ右馮ノ計画ヲ打破スル目的ヲ以テ膠東一帯ニアル部
隊(約六万)ヲ率ヒテ馮軍ニ向ケテ進撃ノ決心ニシテ近
日中ニ同方面軍總指揮官ヲ派遣スル筈ナリ

(二)目下德州附近ニ駐在セル任應岐ノ軍隊(約三万)モ我方
ト確實ナル連絡アリ同軍隊ハ津浦線ニ沿ヒ泰安方面ニ向
ケテ前進シ同地方ニアル馮軍ニ向ヒ攻撃ノ豫定ナリ

(三)北京附近ニ駐在セル徐源泉軍(旧直魯聯軍ニシテ南方派
ニ寢返リシタルモノ兵三万)最近南京政府ヨリ兗州韓莊
附近ニ移駐ヲ命セラレタルカ移駐後ハ解散セラルヘシト
ノ噂アリ軍隊ノ内部不平等高調セルヲ利用シ我方ニ抱込ミ
「リドージン」ハ某地点ニ到着シタル後我方ノ相図ヲ待
チ突如反旗ヲ掲クル筈

(四)河南方面ニアル軍隊中ニハ馮玉祥ニ不平ヲ抱ケルモノ多
シ是等モ我方ト連絡アリ或ル時期ニ於テ旗揚げスル筈ナリ
(五)甘肅省ニ於ケル回々教軍ハ曩頃馮玉祥ニ対シ反旗ヲ掲ケ
目下馮軍ト戦闘中ニテ馮軍ノ死傷(不明)ニ達ス馮ハ其

(欄外記入)

完全ニ我同盟ニ参加シアリ其ノ首領増祺等ハ当地ト各地
間ヲ往来シ各地団員ノ聯絡ニ努メ旗揚げノ準備中ナリ
斯クテ各方面トノ聯絡成功シ諸般ノ準備略成リタルヲ以
テ今ヤ愈々旗揚実行期ニ入り目下左ノ計画ニ依リ策動ヲ開
始シツツアリ

(一)山東東部ニ割拠セル劉珍年ハ張宗昌ノ旧部下ニシテ先頃
我方ト使者ノ往復アリ我方ト合作ニ付テ交渉セシモ彼ニ
誠意ナキヲ認メタルヲ以テ山東東部ヲ我方ノ手ニ於テ統
一セントスル政策上ノ必要ニ依リ彼ヲ現地位ニ置クコト
ヲ許サス幸ニ劉ノ部下軍隊ハ我方ニ帰順ヲ希望スルモノ
多ク之ニ加フルニ同地方ニアル民軍モ我方ニ加担シ是等
ノ軍隊ハ目下既ニ劉珍年攻撃ノ運動ヲ開始シツツアルヲ
以テ劉珍年ハ近日中ニ山東ヨリ驅逐セラルルニ至ルヘシ
然ル後ハ我等ハ同地方ヲ根拠トシ山東省西南方面ニ向ケ
勢力ノ發展ヲ謀ル筈ナリ我等ノ接セル最近ノ情報ニ依レ
ハ從來山東省全部ヲ其ノ勢力下ニ収メント焦慮シツツア
ル馮玉祥ハ山東ヲ以テ日本軍カ近時減兵セル機会ニ乗シ
強力ヲ以テ山東東部地方ノ地盤ヲ掠奪セントスル計画ヲ
有シ最近其ノ行動ヲ開始シ其ノ一部ハ黃河左岸ヨリ東進

ノ鎮庄ニ手古摺リ居レリ(馮ハ新聞掲載禁止セリ)之ヲ
要スルニ今ヤ殆ト全国ニ亘リ我同志アリ各地ニ駐在セシ
軍隊モ亦我方ト呼応シテ旗揚げノ内約アリ我等ハ陰曆正月
十五日ヲ期シ各地一斉ニ旗揚げ決行スル豫定ナリ又東三
省ニ対スル我等ノ計画ハ目下ノ処之ヲ明言スルコトヲ憚
ルモ我等カ断乎トシテ南方勢力ノ侵入ヲ排除シ日本ノ地
位ヲ困難ニ陷レサル趣旨ニ基キ行動スルモノナルコトヲ
了承セラレタシ

以上ノ如ク我等ノ計画ハ既ニ熟シ今ヤ実行期ニ入レルヲ以
テ我等同志ハ近日中ニ逐次目的地ニ向ケテ出発シ当地ヨリ
起兵スルヘク此ノ間我等ハ出来ル丈閩東庁ニ迷惑ヲ掛ケサ
ルコトニカムル筈ナルニ付閩東庁当局ニ於テハ我等ノ微衷
ヲ諒トシテ我等ノ行動ニ対シ成ルヘク大目ニ見ラルル様懇
望ニ堪ヘス云々

右ニ付三浦ヨリ貴下カ自分ヲ信用シ斯ク機密ヲ打開サレシ
ハ感謝ニ堪ヘサル処ナリ去リ乍ラ自分ハ外事課長トシテ關
東州ヲ政治的ノ策源地ト為サシムヘカラストノ伝統的ノ方
針ヲ更ニ繰返シテ述フルノ外ナシト告ケ会见ヲ終レリ
本件ニ関シテハ曩ニ吳光新上京中政府要路ノ大官ニ対シ委

曲申述ヘタル由ナルモ貴電御来示ノ次第モアリ重複ヲ厭ハス長文乍ラ右電報ス

北京、奉天、天津、濟南、青島、芝罘、上海、南京、漢口
ヘ転電セリ

(欄外記入)

前清時代ノ將軍ニテ増祺ナル人アリ現ニ天津ニ在ル筈ナルモ
齡八十ノ由ナレバ青年団ノ首領トハ之レ變ナリ他人カ?

775 昭和4年2月13日

在芝罘森岡(正平)領事より
田中外務大臣宛(電報)

劉珍年は張宗昌派の第四師側との妥協の余地
なきため森岡領事に調停依頼について

芝罘 発
本省 2月13日後着

第二八号

往電第二七号ニ関シ

第四師側ハ構和条件トシテ劉珍年ニ対シ武器彈藥全部ノ引
渡ヲ要求シ来レル趣ニテ全然妥協ノ餘地ナク同時ニ張宗昌

団体に申入れについて

芝罘 発
本省 2月14日後着

第三〇号

時局ニ関シ芝罘市街兵火ノ巷ニ陥ル懼アルヲ以テ当地首席
領事ハ領事団ヲ代表シ兩交戰団体ニ対シ当市及附近ニ於テ
戰爭ヲ避クル様希望申入レノ書面ヲ發送スルコトナレリ
在支公使ニ転電セリ

777 昭和4年2月16日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

山東における張宗昌挙兵の形勢と張學良およ
び湯玉麟との関係に関する褚玉璞の内話につ
いて

奉天 発
本省 2月16日後着

第一三二号

褚玉璞ハ本月十三日大連ヨリ来奉本十五日藤村ニ内話セル
要領左ノ通

モ劉珍年ニ対シ好感ヲ有セサル為張調停ハ差当リ絶望ナル
事判明セルニヨリ劉ハ餘儀ナク第四師ト一戦ヲ交フルニ決
シ逢來ノ東方四里ノ所ニ第一戰線ヲ敷キ福山県ノ北方「キ
ヨウ」河々畔ニ第二防禦線ヲ設ケ且卒平ヲ最後ノ防禦地ト
シ着々準備中ナリ是ヨリ先劉珍年ハ本官ニ対シ地方治安維
持ノ為再三内密ニ兩軍間ノ調停ヲ依頼シ来リタルモ本官ハ
体ヨク拒絶シ置キタル処当地總商會長ハ重ネテ本日本官ニ
対シ事態重大ナレハ劉ニ下野ヲ勧告シテ和平解決尽力方依
頼シ来リタルヲ以テ本官ハ斯ル内政問題ニ関シ容喙スル事
ハ眞平御免ナルモ居留民保護ノ範圍ニ関スル限り最善ト認
ムル方法ヲ講スル旨答ヘ置キタリ尚第四師ハ目下龍口ヲ完
全ニ占領シテ黃県ヲ包囲中ナル由ナル処同城守備ノ何益三
軍ハ既ニ大部分当地ニ引揚ケ来レリ
上海ヨリ南京ヘ転電シ北平、天津、奉天、青島、濟南、上
海、南京、関東庁ヘ転電セリ

776 昭和4年2月14日

在芝罘森岡領事より
田中外務大臣宛(電報)

領事団より芝罘市街の兵火回避に関し兩交戰

山東ハ劉珍年軍ノ解決ニ依リ膠東十四県ハ大体ニ張宗昌ノ
支配ニ歸シ兵力四万ニ達シ相当持久力ヲ有スル海軍アリ目
下張敬堯濟南ニアリ右軍隊ノ統一ニ兼徐源泉軍其ノ他津浦
鐵道沿線ノ馮玉祥反對ノ軍隊トノ聯絡策動ヲ計リツツアリ
張學良ハ張宗昌及自分ニ対シ非常ニ警戒シ居ルモ自分等ハ
東北四省カ自分等ノ行動ニ何等障礙ヲ与ヘ得サル実情ヲ知
リ居ルヲ以テ直接學良ニ不利ナル行動ヲ取ラス東北四省ハ
其ノ自然ノ解決ニ委ス考ヨリ成ルヘク學良ト妥協スル方針
ヲ以テ力メテ之ト接觸シ居ル次第ナリ
湯玉麟ハ自分ト義兄弟ニシテ自分等ノ行動ニハ充分ノ好意
ヲ表シ自分ノ身邊ニ対シテモ充分注意ヲ為シ呉レ居レリ
云々

北平、濟南、青島、芝罘ヘ転電セリ

778 昭和4年2月16日

在濟南西田總領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

山東方面の一般情勢並びに同方面における北
洋派の策動に対する意見上申

濟南 発
本省 2月16日後着

第三一號

閩東長官発閣下宛電報第二一號ニ関シ

当地方面ニ於テモ一月末来略同様ノ噂流布セラレ最近龍口、芝罘方面ノ事実ニ伴ヒ益々其ノ噂高マレル処当地ニ於ケル山東方面ノ状況ニ関シ各種ノ情報ヲ綜合スルニ大要左ノ通

一、膠濟鉄路北方ノ雜色軍トシテハ章邱ヲ根拠トスル張明九一派ノ土匪軍アリ壽光方面ヲ中心トシテ黃河以東昌邑附近ニ亘ル黃鳳岐軍約一万餘アリ青州城内ニ劉振標寶寶章等割拠シ朱泮藻（朱ハ一時魯東保安總司令ト称シ蔣介石ト聯絡セムト計リ居ルモ最近勢力ヲ失シ朱自身ハ目下濟南ニアリ）ノ直屬部隊「チヨウケイテイ」等ノ一部ハ其ノ附近ニ昌樂ニ紀之成高密方面ニ陳子成軍アリ山東東北部ニハ表面蔣系ノ暫編第一軍劉珍年軍アルカ目下劉ノ部下タリシ劉開泰、施中誠、李錫桐、李「シセイ」等ハ顧震、黃鳳岐軍ノ一部ト合シ劉排斥行動ヲ起シツツアリ東南部ニ於テハ昨年末蔣系ノ譚曙卿ヨリ改編ヲ受ケタル

劉志陸、顧震、謝文炳軍劉景堂（劉黑七ノ別名）等アリタルカ劉志陸、謝文炳ハ各々江蘇境ニ移駐シタルモ顧震（諸城ニアリ同軍ノ一部ハ北上セリ）劉景堂（莒州日照方面ニアリ）今尚動カス

二、之ニ対シ泰安政府側ノ膠東掃匪計畫ニ付テハ陳以燦ヲシテ各県民団ニ依リ人民自衛団ヲ組織セシメテ各県掃匪ニ從事セシムル計畫アル外東南部ニ対シテハ馮系ノ楊虎臣（兵力約二万）東進シテ其ノ先發隊ハ既ニ一月末莒州方面ニ到着シ劉景堂、顧震軍ヲ圧迫シツツ坊子高密方面ニ出テムトシ吉鴻昌部隊ハ民団ト共ニ博山方面ヨリ青州方面ニ進出セムトシツツアリ濟南以北ニハ馮系ノ任應岐約二万德州ヨリ禹城晏城間ニ駐屯シ馮系ノ馬鴻逵（新編騎兵ノ一個旅）武定方面ニ根拠ヲ有シ黃河ヲ渡リ黃鳳岐軍ヲ衝テ東進セムトシ

其ノ總豫備隊トシテ目下楊村方面ニアル劉鎮華（約二万）ヲ南下セシメ膠東方面ニ進マシムル計畫ナリ泰安方面ニハ孫良誠ノ直屬部隊約三個師団アル外最近濟南事件交渉解決後濟南及膠濟沿線ノ地方治安維持ノ為一千餘名ノ憲兵及警察隊ヲ訓練シ尚濟寧、開封間ニ既ニ軍用路ヲ

開キテ馮軍直系部隊ヲ急送セシムルコトナリ旧直魯軍タリシ徐源泉軍（約二万ハ天津方面ニテ閻錫山軍ニ改編セラレタル処其ノ後何成濬ノ斡旋ニ依リ蔣介石系ニ入ルコトトナリ安徽ニ移駐ヲ命セラレタリ）ハ禹城、齊河、長清縣ニ南下シツツアルカ部下中ニハ安徽ニ到ラハ改編セララルヲ不滿トセル者アリト謂フ

三、大連ニ在ル吳光新ハ段祺瑞ヲ擁戴シテ北洋派ヲ結束セシメ國民政府ノ左右兩派ノ争鬭開始時期ニ國民政府ノ施政ニ反感ヲ有スル者ト策動シテ先ツ馮玉祥ヲ倒サムトシ山東方面ニ於テハ張宗昌及張敬堯ヲシテ之ニ当ラシムルコトトシ張宗昌ハ旧勢力ヲ利用シテ劉珍年ヲ追放ヒ芝罘及龍口方面ニ其ノ根拠ヲ作り膠東東南部ハ顧震、劉黑七等ヲシテ事ヲ起サシメ膠濟沿線及附近ハ雜色部隊ヲシテ青州、高密等ニ根拠地ヲ作ラシムル外津浦沿線ニテハ一月以來当地ニ在ル張敬堯、任應岐ト密カニ聯絡シ且南下中ノ徐源泉軍ノ主力部隊泰安西方ニ到着スルヲ俟テ同時ニ馮反對派ニ策応スルコトトシ其ノ際馬鴻逵ハ中立ヲ守リ又閻錫山、李宗仁等モ之ニ加担シ吳佩孚ノ關係ヨリ最近劉湘トモ聯絡成リ適當ナル時機ニ四川ニ旗竿シテ後方

ヲ威嚇スル計畫ナリト謂フ

四、⁽³⁾反馮派ノ斯ル計畫ハ全然謠言ニ止マラス吳光新、張宗

昌、張敬堯等カ該計畫實現ニ努力セルモノト認メララルル処從來張宗昌ノ如キ十餘万ノ兵力ヲ有シ北ニ尚張作霖アリシ際ニ於テサヘ敗北シ且山東ノ人心ヲ全然失ヘル故ニ膠濟沿線ノ雜色部隊ハ何レモ多クハ土匪のノモノニシテ主義トテハ無ク自己保全ノ為時々二三首領間ニハ攻守同盟ヲ為スモ其ノ離合常ナラス又任應岐及徐吳等ノ多少組織的ナル運動ハ山東一部ニ於テ或ハ一時實現スルヤモ計リ難キカ今日ノ大勢ヨリ見テ國民政府内ニ左右兩派ノ内争具體的ニ實現スルカ或ハ新軍閥間ノ争鬭勃發セサル限リ結局失敗ノ外ナキモノト認メララルル処茲ニ注意スヘキハ斯ル計畫カ我軍ノ駐屯中若クハ撤退直後ニ事ヲ挙ケテ間接ニ我軍ヲ利用セントスル形跡アルコトナリ我方トシテハ何等關係セスト雖國民政府或ハ其ノ他ノ第三者ヨリ之ヲ見レハ彼等ヲ援助セルカ如キ疑心ヲ生セシメ徒ニ種々ナル口実ヲ与フルコトトナリ我方ニ惡影響ヲ来シ延テ目下ノ日支交渉及之ニ伴フ撤兵ニ付テモ重大ナル關係ヲ及ホスノミナラス斯ル反國民政府ノ行動ノ結果ハ将来

濟南及膠濟沿線在留邦人ノ居住不安並膠濟鐵道運行阻礙ノ禍根タル虞アルニ付本官トシテハ是等ノ諸点ヲ考量シ時々藤田總領事及軍側トモ協議セル次第ナルカ我当局ニ於テモ對策全般ヨリ特ニ御考慮相成度シ御參考迄上海ヨリ南京へ暗送アリタシ関東長官ニ意訳ノ上郵送セリ北京、青島、奉天、天津、上海、漢口、芝罘へ転電シ張店、博山、坊子へ暗送セリ

編注 「張敬亭」との書き込みあるも「石敬亭」の誤りか。

779 昭和4年2月19日 田中外務大臣より在米国出淵大使宛（電報）

張宗昌等の再起運動進捗に對し我が出先機関に措置方注意喚起について

本省 2月19日後7時発

第六六号

大連ニ亡命中ノ張宗昌、吳光新等ノ一派ニ再起運動ノ計画アリトノ風説過般來伝ヘラレ居タル処内密ノ情報ニ依レバ

方針ニテ処置シ居ル次第ナリ尚最近張宗昌ガ自ラ大連ヨリ山東ニ渡ル為日本船八幡丸ヲ傭船シタルコトヲ知リタルヲ以テ日本船ヲシテ斯カル輸送ヲ為サシメサル様関東庁ニ命シ置キタリ
英ニ転電シ英ヨリ仏ニ転電セシメ其ノ他ノ在欧各大公使ニ暗送セシメ仏ヨリ聯盟帝國事務局長及杉村ニ転報セシメラレ度シ

780 昭和4年2月20日 在濟南西田總領事代理より田中外務大臣宛（電報）

張宗昌等の反国民政府運動具体化に對し我が方対応策決定について

濟南 本省 2月20日後着

第三三三号

本官發青島宛電報

第二五号

七 中国外交関係雜纂

（欄外記入一）
本官發外務大臣宛電報第三一三三号ニ関シ其ノ後関東長官及芝罘發大臣宛電報ニ鑑ミ北洋派ノ反革命

最近相当進捗シ來レル模様アリ尤モ其ノ具体化ノ程度不明ナルノミナラズ假令実行スルモ成功ノ望甚ダ少キモノト認メサルヲ得サルガ彼等ノ言ニ依レバ右運動ハ現国民政府ニ反對ノ各派ヲ糾合シ段祺瑞ヲ中心トシテ共和大同盟ナルモノヲ組織シ真正共和ノ回復、民主立憲ノ実行、五色旗ノ擁護ヲ標榜シテ現政府打破ヲ期スルモノニシテ既ニ西南方面ニテハ吳佩孚ヨリノ代表ヲ派遣シ來リ楊森等ノ四川將領モ参加ノ約アリ廣東ノ陳炯明ハ自ラ大連ニ來ツテ議ニ参加シ又李宗仁、李濟、白崇禧、閻錫山、商震等モ聯絡又ハ了解アリ山東河南方面ノ軍隊ニモ氣脈ヲ通スル者アリ殊ニ山東ニ於テハ芝罘ノ劉珍年誠意ナキニ依リ其ノ部下ノ軍隊ヲシテ同人ヲ驅逐セシメタル上該地方ヲ根拠トシテ山東ニ勢力ヲ張ラムトスルモノナリト云フ

右ニ付テハ外間日本側ノ援助アルガ如ク伝フルモノアレドモ我方ニ於テ何等支援ヲ与フルガ如キコトナキハ勿論ナルノミナラズ関東州ヲ政治的策動地ト為サシムヘカラストノ我方從來ノ方針ハ彼等ニモ徹底セシメ居リ又山東ニ於テモ日本兵駐屯ノ現状ニ於テ斯カル反国民政府運動ノ行ハルコトハ諸般ノ關係上面白カラサルヲ以テ出先ニ於テモ此ノ運動モ愈具体化シ來リ之カ対応策攻究ノ必要モ起リタル処佐藤大佐昨十九日貴地ヨリ歸濟滯青中貴官トモ右方針ニ付大体協議スル処アリタル趣モアリ本二十日日本官軍側ト協議ノ上不取敢左ノ通大体ノ方針ヲ定メ膠濟沿線部隊ヘ内訓スルコトトナリタルニ付貴官ニ於テ御意見乃至御氣付ノ点モアラハ電報アリタシ

（欄外記入二）
一、日本軍警備区域内ニ於ケル反革命運動ノ策動（弁公署ノ設置、募兵、武器購入等）ハ一切之ヲ禁止シ表面ニ現ハレ又ハ具体的ニナリタル場合ハ必要ニ依リ之ニ對シ退去等ノ措置ヲ執ルコト

（編注二）
二、反革命軍ノ警備区域内通過及侵入ハ一切之ヲ許容セス
（編注三）
三、反革命軍ニ干与スル本邦人アラハ之ニ警告ヲ加ヘ極端ナルモノニ對シテハ退去処分等適宜処置ス
（欄外記入一）
關東長官ニ「バラフレーズ」ノ上郵送セリ
外務大臣、北平、上海、南京、天津、奉天、漢口、芝罘ニ転電シ張店、博山、坊子へ暗送セリ

（欄外記入一）
山東ニ於ケル我方方針 二月二十日決定

(欄外記入二)

後ニ下記鉛筆書ノ通り(編注一―三を指す―編者注)修正セリ(濟南來電第三五号)

編注一 「反革命運動ノ策動」の箇所に「反動的策動」との書き込み訂正あり。

編注二 「反革命軍」の箇所に「治安維持ニ障害アリト認ムル反政府軍」との書き込み訂正あり。

編注三 「反革命軍ニ干スル本邦人」の箇所に「反動運動ニ直接関与セル日本人」との書き込み訂正あり。

781 昭和4年2月21日

在天津田代総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

吳光新、張宗昌等の共和大同盟画策に対する
段祺瑞の態度について

天津 発
本省 2月21日前着

第三八号

関東長官発閣下宛電報第二一号ニ関シ

段祺瑞ハ二月二十日白井副領事ニ左ノ通内話セリ

サムトスルニ至レルモノナルヘキモ当方面ノ聯絡ニ付テハ
何等承知シ居ラストノコトナリ

関東庁ヘ大意電報セリ

北平、奉天、青島、濟南、上海、南京ヘ転電セリ

782 昭和4年2月21日

田中外務大臣より
在米國出淵大使宛(電報)

張宗昌等の大連出發と山東省龍口に上陸し五

色旗掲揚について

本省 2月21日後1時30分発

第七〇号

往電第六六号ニ関シ

張宗昌ハ吳光新以下従者約二五〇名ト共ニ二月十九日早朝
八幡丸ニテ大連ヲ出發シ同日夜山東省龍口に到著シタル趣
ナリ尚之ト同時ニ龍口及討逆軍ノ勢力範圍ニテハ新製五色
旗即所謂張宗昌旗ヲ掲ゲタル由ナリ

英ニ転電シ英ヲシテ仏ニ転電セシメ其ノ他ノ在欧各大公使
ニ暗送セシメラレ又仏ヲシテ聯盟帝國事務局長及杉村ニ転
報セシメラレ度シ

吳光新、張宗昌等ノ共和大同盟ニ付テハ豫テ聞及ヒ居ルモ
自分ハ近來消極主義ヲ持シ居リ直接彼等ノ策動ニハ関与シ
居ラス

自分ノ見ル処ニテハ膠東ニ於ケル策動ハ兎ニ角各地一斉ニ
事ヲ起スニハ時機尚早ナリト思考ス

二、彼等ハ自分ヲ推戴ストノ事ナルカ自分ハ之ヲ応諾シタ
ル次第ニ非ス自分カ先輩關係上是レ迄各方面ヨリ此ノ種ノ
話持掛ケラレタル事アルモ取合ハサリシカ真ニ国家人民ノ
為トナラハ努力スヘシ

三、張宗昌ノ山東方面策動ハ日本側ノ諒解ノ下ニ行ハレ居
ル事ト自分ハ推測スルカ彼等ノ申出ニテハ日本ヨリ膠濟鉄
道收入ヲ担保ニ借款シ得ルコトモナラハ張宗昌カ山東督
弁ノ官印ヲ現ニ保管シ居ルニ付之ニ依リ契約ハ如何様ニモ
作り得ヘシトノコトナリ(極秘)

四、張宗昌カ独逸ヨリ購買セル小銃八万挺其ノ他ノ武器ハ
近ク其ノ手ニ入ル筈

尚王揖唐カ白井ニ内話セル処ニ依レハ段ハ吳光新一派ノ策
動ニ全然賛同シ居ルモノニ非ス寧ロ其ノ輕率妄動ヲ戒メツ
ツアル次第ナルカ彼等モ待ツニ待タレス遂ニ膠東ニ事ヲ起

783 昭和4年2月21日

在中国堀臨時代理公使より
田中外務大臣宛(電報)

日本の張宗昌支持説が一般に疑惑を高めつつ
ある形勢に鑑み張の報道取扱振りには細心の

注意方必要と思料について

北平 発
本省 2月21日後着

第一八一号

往電第一六五号ニ関シ

張宗昌ノ動靜ニ関シテハ当方面一般ニ背後ニ日本ノ支持ア
ルカ如キ印象ヲ有シ居リ其ノ後十九日新晨報モ亦同様ノ社
説ヲ掲ケ次テ頃日来当地東安市場附近掲示板ニモ亦同趣旨
ノ貼紙ヲ見受クルニ至リ一般ノ疑惑ヲ高メ來リツツアル形
勢ノ觀アリ大連其ノ他各地發東方電ニ対シテハ当館ニ於テ
之カ發表ニ関シ出來得ル限り手加減ヲ加ヘ居リタル処二十
日上海發路透ハ同地日本官辺消息ナリトテ張宗昌ノ動靜ヲ
報道シタル為館員カ二十一日外人記者会見ノ際相當突キ込
ミタル質問ヲ受ケタル次第ナルニ付テハ此ノ際當方其ノ他

ノ本件取扱振ニ付最細心ノ注意ヲ払ハシムル必要アルヘキ
カト思料ス

上海、奉天、芝罘、青島、濟南、関東長官へ転電セリ

784 昭和4年2月21日

在奉天林総領事より
田中外交大臣宛（電報）

山東地方の擾乱に対する我が方針統一方に關
し上申

奉天 発

本省 2月21日後着

第一四〇号（極秘）

閣下発関東長官宛電報第二九号ニ関シ

八幡丸ハ回電接到前出帆済ニテ関東庁トシテモ同船ノ輸送
阻止方手配ノ由ナカリシ次第ナルモ当館接受諸般ノ情報ニ
依レハ關東州ヲ軍的策動地ト為サシメストノ政府ノ御方針
ハ必スシモ関東庁側ニ徹底シ居ラサリシモノノ如ク本官ニ
於テハ吳、張等ノ計画ハ日本側ニ対スル關係上内密裡ニ進
捗中ノコトト思考シ居タル処今回張ノ門出ノ如キハ公々然
而モ極メテ仰々敷行ハレ内外人一般ニ対シ関東庁側内面ノ

点ニ充分ノ注意ヲ用ヒ居ル次第ニモ有之旁文武何レノ方面
タルヲ問ハス政府ノ方針ヲ体シ毫モ逸脱ノ行為ナキ様此ノ
際中央ニ於テ篤ト御懇談ノ上關係方面ニ嚴訓アラシム事切望
ニ耐ヘス

北平、上海、南京、芝罘、濟南、青島へ転電セリ

785 昭和4年2月21日

在青島藤田総領事より
田中外交大臣宛（電報）

張宗昌等の山東上陸は今後の同方面の政局並
びに我が方の立場に影響あるにつき、その行
動に対し一層嚴重に取締る方針について

青島 発

本省 2月21日後着

第四七号

閣下長官発閣下宛電報第二三三号ニ関シ

張宗昌既ニ龍口ニ上陸シタル以上膠東一帯ヲ策源地トシテ
活動スヘキコトハ当然ナル処其ノ行動ノ今後山東方面ノ政
局及我方ノ立場ニ及ホスヘキ影響ニ付テハ此ノ際相当注目
ヲ要スヘシ張宗昌ノ行動ハ兇惡ニ類スルカ如キモ万一今後

了解アルモノトノ感触ヲ与ヘタル觀アリ又張學良側ニ於テ
ハ往電第一一六号所報同人ノ大連方面ニ派遣セル密偵カ関
東庁側ヨリ過度ノ圧迫ヲ受ケタル等ノ關係上張今回ノ挙事
ニハ日本政府少クトモ関東庁ノ了解アルモノト断定シ居ル
カ如シ右ニシテ単ニ本官一己ノ杞憂ニ終ラハ幸ナルモ東三
省ニハ吳、張一派ノ勢力乃至計画ヲ過信シ同派ノ山東
進出ニ依リテ支那本部ニ於ケル諸勢力対立ノ状勢ヲ誘致シ
以テ東三省ノ局面打開ニ資スヘシトノ論者ナキニアラサル
ヲ以テ

政府ノ御方針一定セルニ拘ラス出先官憲ノ措置ニ途ニ出テ
シカ再ヒ往年ノ如キ二重外交ノ端ヲ開クニ止マラス濟南事
件未解決ノ今日山東地方ノ擾乱ニ関シ帝國ノ立場ニ付彼此
疑惑ヲ招クハ関東長官宛御訓示ノ通帝國ノ対支政策全般ノ
上ニ於テ極メテ不利ナルモノアルハ勿論南方トノ懸案一段
落ノ前後ヲ期シテ当方面ノ局面打開ノ方途ニ出テラレント
スル我立場ニ大ナル支障ヲ与フル懼アリ本官ニ於テハ今後
東三省局面轉換策遂行ニ当リ充分ナル実績ヲ挙ケンカ為ニ
ハ系統ヲ異ニセル本邦側諸機關併存ノ当地特殊ノ事態ニ鑑
ミ先以テ本邦側各機關ノ協調ヲ肝要ト思考シ平素ヨリ此ノ

一ヶ月モ持堪ヘ得ルニ於テハ支那ノ通弊トシテ其ノ間策應
者ノ輩出スルナキヲ保セス殊ニ鐵道沿線付近一帯ニ割拠シ
約三万ノ兵力ヲ有スル劉黑七、黃鳳岐、顧震等（濟南発閣
下宛電報第三一〇号参照）ノ懷柔ニ成功セハ地方的一勢力ト
モナリ相当ノ期間膠東一帯ノ地盤丈ケハ保持シ得ヘシト認
メラル然ルニ一方之ヲ討伐スヘキ馮玉祥側ノ現勢ヲ案スル
ニ馮ハ精銳十二師ヲ有シ張ヲ討ツヘキ實力ハ充分ナルモ其
ノ大部分ハ現ニ武漢、陝西、山西ノ各方面ニアル孫傳英、
徐源泉等ノ旧直魯系ニ備ヘ十二師ノ中僅カニ四師ヲ泰安方
面ニ止メ居レルニ過キサル実状ナレハ急遽芝罘方面ニ迄大
部隊ヲ進ムルコトハ甚タ困難ニシテ其ノ間相当ノ時日ヲ要
スヘク而シテ長引ケハ長引ク程張側ノ策動ハ有利ニ展開シ
得ルカノ可能性モアルヲ以テ今後ノ変化如何ニ依リ山東方
面ハ相当面倒ナル事態ヲ惹起スヘク懸念セララル

斯ル事態ハ我方トシテ迷惑至極ナルノミナラス南京政府ハ
之ヲ奇貨トシテ逆宣傳ニ悪用スル懼アルニ付テハ我方ノ張
ニ対スル態度ハ申迄モ無ク陸海軍側トモ聯絡シ嚴正ヲ旨ト
シ張ノ勢力ヲ警備区域ニ近ツケシメサルノミナラス又同区
域内ニ於ケル策動ヲ嚴禁シ一切張系色彩ヲ有スル軍事關係

者ノ在留ヲ認メス邦人ノ浪人者ニ対シテモ此ノ際一層嚴重ナル取締ヲ勵行スル方針ナリ

尚此ノ際我出先軍隊ニ於テ支那側ノ誤解ヲ惹キ起スカ如キ行動ヲ絶対ニ為ササル様吳々モ注意方佐藤大佐ニ申入置キタリ又近ク濟南事件解決ヲ見ルニ当リ尚斯ル事態存続ノ場合ニハ日支軍隊交替ノ中間ニ於テ事ヲ起シ易キ危険性伏在スルヲ以テ撤兵方法ニ付テハ申迄モ無ク豫メ充分ナル御考慮ヲ煩度シ

北平、濟南、上海、南京、芝罘、奉天、天津、漢口ニ転電シ坊子、博山、張店へ暗送セリ

786 昭和4年2月21日

在青島藤田総領事より
田中外務大臣宛(電報)

山東における我が方針を執行上遺憾なき様取
計方出先軍側に注意喚起することについて

青 島 発

本 省 2月21日後着

第四八号

本官発濟南宛電報

本邦浪人の蒋介石等暗殺計画に関して至急調査
の上嚴重取締り方注駐日公使より申出について

本 省 2月22日後6時30分發

第一一八号

(欄外記入)
二十二日汪公使亜細亞局長ヲ来訪シ情報ニ依レバ須藤理助過般来大連上海間ヲ往復シ張宗昌等ノ反国民政府運動者ト聯絡シ居タルガ一兩日前上海ニ歸リ蒋介石等国民政府幹部ノ暗殺(蔣ハ其ノ杭州ヨリノ帰途ヲ要シテ実行ス)ヲ企図

シツ、アリトノコトニ付其ノ真偽ハ不明ナルモ兎ニ角日本側ニ於テ至急調査ノ上事実ナラバ嚴重取締アリ度旨申出デタリ本大臣発在南京領事宛電報第二七号ノ如キ情報モアル折柄ニ付至急御取調ノ上何等類似ノ事実アラバ充分取締ラレ度シ

訓令トシテ南京、杭州ニ転電アリタシ、北京、青島、濟南へ転電シ青島ヲシテ芝罘ニ転電セシム

(欄外記入)

海軍省軍務局長へ写送付済(二月二十五日)

第一五号

貴電第二五号ニ関シ

御来示ノ方針ニ対シ我方大体異存無キモ当地軍側ノ意見ニ依レハ孰レヲ反革命運動又ハ反革命軍ト看做スヘキヤ實際上区别困難ノ場合モ想像セラルルニ付之ヲ治安紊乱ノ運動トカ又ハ治安維持ニ妨害アリト認ムヘキ不純軍隊ト訂正スル方然ルヘシトノ事ニ付テハ右貴地軍側トモ今一応御打合アリタク尚張今次ノ行動ニ関シテハ日本軍トノ間ニ何等聯繫アルカ如ク臆測セル向アルニ加ヘ南京政府側ニ於テハ之ヲ奇貨トシテ逆宣傳ヲ試ミントスル懸念モアリ旁右我方ノ公正ナル態度ハ至急一般ニ周知セシムル要アリト認メラルルニ付此ノ点併セテ軍側トモ御協議ノ上至急適宜御措置相成度ク又本件方針決定ノ上ハ之ヲ出先軍隊ニ徹底セシメ実行上遺憾無カラシムル様取計方特ニ軍側ノ注意ヲ喚起シ置カル様致度シ

大臣、北平、上海へ転電セリ

787 昭和4年2月22日

田中外務大臣より
在上海上村総領事代理宛(電報)

788 昭和4年2月23日

在濟南西田総領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

北洋派蹶起の次第並びに今後の行動に関する
張敬堯、張魯泉の談話について

濟 南 発

本 省 2月23日後着

第三六号

去ル十七日張敬堯、張魯泉ト共ニ本官ヲ来訪シ北洋派蹶起ノ次第ヲ語り先ツ山東ニ根拠出来レハ次テ段祺瑞トノ關係ヨリシテ陳調元、方振武、魏益三等モ之ニ策応スヘキ筈ニハ、差当リ反馮ヲ主眼トシ蒋介石ニハ許崇智ヲ經テ聯絡シ吳佩孚、陳炯明等モ策動スヘキ等類リニ述ヘタルカ結局今回ノ反国民政府運動ハ表面共和大同盟ヲ標榜シ国民党一党ノ支那統治ニ反対セルモノナルモ裏面ハ從來北洋派ノ首領株カ旧軍閥旧官僚或ハ劣紳等ノ名目ニテ財産ヲ没収サレ居住不安ヨリ国民政府ノ基礎鞏固ナラサル間ニ不平ノ政客軍人ヲ糾合シテ反対運動ヲ計画シ居レルモノニシテ確タル主義ナク殊ニ数千萬元以上ノ富ヲ有スル王占元ノ如キカ充分出金セサル由張力不満ノ口吻ヲ洩シタル点ヨリ考ヘルモ

既ニ軍費ニ苦シミ北洋派ノ團結トテ未タ鞏固ナラサルヲ感知セラレタリ

依テ本官ハ支那政局ノ批判ハ兎モ角トシテ北洋派カ第一革命後ノ内訌ヲ続ケテ遂ニ今日ノ状態トナレルハ北洋派或ハ旧軍閥自ラ招ケル結果トモ認メラルカ国民党ニシテ腐敗又ハ内訌ヲ続ケレハ同様ノ結果ヲ来スヘシ貴國ノ内政ニ関シ自分ハ彼此云フ限りニ非サルモ此ノ際山東殊ニ我駐屯軍警備区域ヲ策動地トシ又ハ我カ駐屯軍ノ存在ヲ背景的ニ利用セントスル傾向アルカ如キハ日本ノ迷惑千万トスル処ナリ現ニ旅大ノ如キヲ之カ策動地タラシムルコトハ我方ノ欲セサル処ニシテ関東庁ヨリ既ニ吳光新ニ警告ヲ与ヘタル通りニシテ若シ当地ニ於テスヘキ意思ヲ以テ行動セラルルカ如キコトアラハ遺憾乍ラ退去等適當ナル処置ニ出ツルカ如キ不愉快ナル問題ヲ惹起スルヤモ計ラレサルニ付斯ル事態ノ生セサル様致シタシト警告ヲ与ヘ尚張魯泉ハ昨年六月来済以来頻リニ山東自治政府或ハ山東自治委員会等ヲ設置セントノ意見アリシ際市民トシテ維持会ヲ援助スルハ兎モ角濟南、青島及膠済沿線二十支里内ヲ根拠トシテ政治的ニ策動スルコトハ絶対ニ承認シ得サルコトヲ當時度々直言シタル

芝罘 発

本省 2月23日後着

第三八号

張宗昌ハ去ル十日龍口上陸ト同時ニ既報ノ通新制五色旗ヲ掲ケタル外別ニ中華同盟軍第三方面軍総帥ノ名ヲ以テ反国民政府ノ通電ヲ発シタル趣ナル処(当地ニハ到着セス)同時ニ全軍ニ命シテ芝罘攻撃ヲ開始シ同軍約一万二十一日福山ノ西方ニ在ル劉珍年軍(兵力六千)ノ第一防禦線ニ猛襲シ来リ二十二日午后迄劉軍ト激戦ノ結果張軍敗北シ一時退却セリ目下ノ処劉軍稍々優勢ナレハ戦局ハ相当永引ク模様ナリ今後形勢ノ变化ハ豫想困難ナルモ情報ニ依レハ今二十三日白崇禧ヨリ劉珍年ニ対シ天津ヨリ援軍ヲ派遣スヘキニ付一週間戦線ヲ死守セヨトノ電報来レル由ニテ形勢益々重大化スル懸念アリ尚目下我驅逐艦四隻在泊シ英國側ハ砲艦二隻ヲ以テ警備中ナルカ米國側モ事態重大ナリト認メ巡査艦一隻馬尼刺ヨリ当地ニ急派スルコトナリ二十五日到着ノ豫定ナリ

在支公使、天津、奉天、濟南、青島、上海、関東長官へ転電セリ

次第ナリト述ヘ張魯泉ノ最近行動ニ付テハ警告ヲ与ヘ置キタリ次テ十九日ノ維持会ニ於ケル日支聯絡會議ニ於テ崔會長韓警察総弁列席ノ際本官ヨリ最近ノ時局ニ関シ当地ニ於テモ反動運動ニ付種々ナル謠言アル処日本側トシテハ山東治安維持ニ障礙ヲ来スカ如キ行動ハ其ノ動機ノ如何ヲ問ハス承認シ難キ次第ニ付維持会トシテハ当地治安維持ヲ専心トスヘキモノニ付警察側ニ於テモ嚴重取締方ヲ要望シ置キ尚佐藤大佐ヨリモ張敬堯等ニ警告シタル結果ニヤ兩人ハ二十一日一応当地ヲ去リ濰県ヨリ龍口ニ赴ケル由ナリ(一説ニ兩張ノ離済ハ張宗昌ノ許ニ金ヲ取りニ行キシモノナリトモ云フ)

関東長官へ「バラフレーズ」ノ上郵送セリ

北京、青島、奉天、天津、上海、南京、芝罘へ転電セリ

789 昭和4年2月(23)日

在芝罘森岡領事より
田中外務大臣宛(電報)

山東上陸後の張宗昌の動向並びに情勢対処のため日、英、米各国軍艦警備について

790 昭和4年2月26日

田中外務大臣より
在中国堀臨時代理公使、在奉天林、在上海矢田、在青島藤田各総領事宛
(電報)

関東州を中国人の政治的策源地たらしめない様我が政府年来の方針を関東長官に訓令について

本省 2月26日後7時発

合第一一四号

張宗昌等ノ再起運動ニ関シ二月二十六日附関東長官へ左ノ通訓令^(編註)シ置ケリ御含迄

関東州ヲ支那人ノ政治的策源地タラシメサル帝國政府年来ノ方針ハ貴庁ニ於テモ充分之レヲ諒知セラレ居ルヘク殊ニ又日支關係ノ最モ緊張シ機微ノ事態ニアル当今本方針ノ嚴守ニハ一層留意可相成筈ノ処今般張宗昌等カ拳兵ノ目的ヲ以テ邦船ヲ備船シ部隊ヲ成シ武器ヲ携ヘ山東ニ向テ大連ヲ出發セムトスルニ際シ貴庁ニ於テ之ヲ阻止セサリシ為メ中外ニ対シ恰カモ日本カ該運動ヲ援助シツ、アルカ如キ印象ヲ与ヘタルハ本大臣ノ頗ル遺憾トスルコロナリ就テハ將來ニ於テハ前記政府ノ方針ヲ嚴守シ苟モ一般ヲシテ日本ノ

公正ナル態度ヲ誤解セシムルカ如キコト無キ様充分御注意
相成度

上海宛ニハ「南京ニ転電アリタシ」

青島宛ニハ「芝罘ニ転電アリタシ」

ト附記スルコト

編注 亜一機密第七三号をもつて送付された。

791 昭和4年2月27日

田中外務大臣より
在奉天林総領事宛(電報)

目下南京、上海方面において画策中の本邦浪
人と張宗昌一派との関係等に関し通報

本省 2月27日後7時発

第三五号(極秘)

本月中旬張宗昌ノ副顧問ト称スル日本人青木白柳ナル者部
下ノ邦人二名ト共ニ変名シテ南京ニ赴キタルガ同人等ハ南
京ニ於テ動乱ヲ起ス企図ヲ有シ既ニ便衣隊及爆弾等ヲモ搬
入シアリト称シ又之カ前提トシテ先ヅ蔣及王ヲ倒ス計画ナ
リト称ヘ青幫ト聯絡ヲ取ラムトシツ、アルヤノ情報アリタ

ルヲ以テ在南京領事ヲシテ取調ベシメタル処同領事ノ報告
ニ依レバ二月十日ヨリ同地寶來館ニ止宿セル大連ノ商人ト
称スル帖左越男井上秀哉高橋惠潮ナル三名十四日頃ヨリ各
商店ヲ歴訪シ商売ノ状況ヲ尋ネ廻ル等其ノ行動普通人トシ
テハ不審ノ点多ク殊ニ大連方面ト頻リニ暗号電信ノ往復ヲ
為シ居ル模様ヨリ或ハ張宗昌一派ト何等關係アルヤモ知レ
サレバ場合ニ依リテハ断乎タル処置ニ出ツベキ考ニテ南京
領事ヨリ関東庁ニ同人等ノ身元電照中ナリシガ右本省ヨリ
ノ電訓ニ依リ同領事ニ於テ取調ヘタル処右井上秀哉ガ青木
白柳ニシテ彼等來寧當時既ニ同地駐在海軍武官柴田中佐ニ
前記ノ如キ計画アルコトヲ内話シタル由ナルガ彼等ハ青幫
トノ交渉纏ラズ既ニ上海方面ニ引揚ゲタリトノコトナリシ
ガ更ニ上海及杭州ヨリノ電報ニ依レバ右青木ノ部下ト認メ
ラル、高田治雄及帖佐白柳ナル者南京ヨリ來滬セリトテ上
海ニ來リ更ニ杭州ニ赴キタルガ杭州ニテハ右兩人ト認メラ
ル、者十九日同地着見物ヲ為シ旅館ニテ蔣介石ノ行動等ヲ
尋ネ(蔣ハ十八日同地發奉化ニ赴ケリ)タル位ニテ別ニ不
穩ノ舉動ナク同日夜行ニテ上海ニ向ヒタル趣ナリ尚在京汪
公使ハ二十二日來省シ情報ニ依レバ須藤理助過般來大連上

海間ヲ往復シ張宗昌一派ノ運動者ト聯絡シ居タルカ一兩日

前上海ニ歸リ、蔣介石等國民政府幹部ノ暗殺(蔣杭州ヨリ

ノ帰途ヲ要シテ実行ス)ヲ企図シツ、アリトノコトニ付取

締ラレ度キ旨申出デアリタルニ付南京岡本領事ヲシテ同人

ニ就キ取調ベシメタル処同人ハ二月十七日東京發直接歸寧

シタルモノニシテ張宗昌等ノ運動ニ關係シタルコトナキハ

勿論最近大連方面ニ赴キタルコトナキヲ言明シ唯同人ハ曾

テ菊池中将ヨリ張宗昌ヲ知り居ルカトノ問合セヲ受ケタル

コトアリト申立テタル由ナリ

右ノ如キ次第ニテ目下南方ニ於ケル本邦浪人ノ行動ニ付テ

ハ關係領事ヲシテ充分注意セシメ居ル所ナルニ付貴電第一

五三号(貴官發関東長官宛第三九号)ノ件御取調ノ結果ハ

当方ト共ニ上海及南京ヘモ電報相成度(前記貴電ハ当方ヨ

リ北京、上海、南京ニ転電セリ)

本電ノ内容関東庁ヘ通達シ置カレ度シ

792 昭和4年2月28日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

本邦浪人等の奉天城内攪乱計画に関する詳報

奉天 発

本省 2月28日前着

第一五七号

関東長官宛往電三九号ニ関シ

張宗昌山東進出ニ前後シ当地ニ於テモ本邦浪人策動ノ兆ア

リタルヲ以テ動靜嚴重監視中ナリシ処二十四日奉天警察側

ニ於テ同日夜ヲ期シ(旧正月十五日)ニシテ城内雜沓ヲ極

ム)城内要所ヲ爆弾ヲ以テ破壊スルノ計画アル旨聞込アリ

又二十五日民間側ヨリ当館ニ対シ右計画ノ内容並ニ關係者

ノ氏名等内報アリタルヲ以テ二十五、六兩日徹宵警戒探查

ノ結果本件檢舉ヲ見ルニ至リタルカ警察側取調ノ結果今日

迄ニ判明シタル所大要左ノ通

(一)一月末以來張宗昌顧問小日向權松ハ当地在住ノ浪人田

原繁(天牛)

ト城内攪乱計画ヲ図リ居タルカ小日向ハ二

月六日大連ニ於テ田原及山城壽平(大連錢莊業者)ヲ張

宗昌ニ引合セ右計画ニ付張ノ意見ヲ求メタル処張ハ近ク

山東ニ拳兵ノ筈ナレハ右拳兵ニ氣勢ヲ添ヘ且日本側ニ於

テ學良ニ脅威ヲ与フルカ為ニハ至極結構ナリトテ右計画

ニ賛成シタルヲ以テ

793

昭和4年2月28日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

本邦浪人による奉天城内攪乱計画に関する其
の後の取調結果について

奉天

発

本省 2月28日前着

(2) 右決行ニ先立チ田原上京ノ上中央ノ了解ヲ求ムル事ニ取
極メタルモ折柄原口聞一來奉ノ旨通報アリタルニ付原口
ヲ通シ中央ノ了解ヲ求ムル事ニ豫定ヲ變更シ田原上京ヲ
見合セタリ

(二) 本月十九日張宗昌山東上陸ノ報アルヤ山路ハ二十日三千
円ヲ持参來奉當地附屬地内温泉「ホテル」ヲ根城ニ計画
ヲ進メ居リシ処折柄同「ホテル」ニ京奉沿線興城炭坑経
営者吉井善吉宿泊中ナリシヲ以テ彼等ハ吉井ニ対シ本件
計画ヲ打明カシタル上軍部ノ了解アルヲ以テ事発覚スル
モ処罰ヲ受クルノ恐ナシトテ百方勧誘ノ結果吉井ノ賛同
ヲ得吉井ハ一度帰坑ノ上二十三日桜印「ダイナマイト」
百四十封度ヲ携帶來奉セリ

(三) 彼等ハ右ノ如ク活動資金及爆彈ノ調達成リタルヲ以テ更
ニ一步ヲ進メ投彈決行者ヲ物色ノ末在大連暴力団大統社
ノ一員津田幸次郎(張宗昌關係本邦浪人カ張宗昌旗揚資
金入手ノ目的ヲ以テ大連在住元山東銀行総弁蔣有探及第
三婦人ヲ殺害セル事件ニ関シ一味トシテ検挙セラレタル
モ証拠不充分ノ為釈放大連ヨリ諭示退去セラレ爾來哈爾
濱ニ居留シ居タリ)

政策上局面打開策断行ノ要アル此ノ際ニ当リテハ当地方ニ
於ケル不良分子ヲ一掃シ我方政策ノ徹底的遂行ニ対スル障
害ヲ除去シ置ク事絶対ニ必要ニ付近ク取調終了ヲ待チ本官
ヨリ関東長官ニ対シ人名ヲ挙ケ附屬地内浪人ニ対スル退去
処分発令方要請スル所存ニ付其ノ際ニハ遲滞ナク発令アル
様豫メ同長官ニ懇談シ置カレタシ

関東庁ヘハ末段本官ノ所見ノミ転電セリ

北京、芝罘、青島、濟南ヘハ概要転電シ在滿各領事ヘ暗送
セリ

編注 「繁」の箇所に「茂」との書き込みあり。

(3) ヲ呼寄セ説得シタル処津田ハ之ヲ引受ケ大連ヨリ更ニ浪
人二名ヲ同行シ來リ又他方前記田原ハ平素鮮人間ニ知己
多キ關係上鮮人間ノ注意人物タル申明球ヲ通シ開原ヨリ
鮮人二名ヲ呼寄セ都合五、六名ヲ携行者トセリ

四然ルニ二十四日夜津田ハ最後ノ訣レニ料亭ニテ飲酒泥酔
シタル為決行ノ機ヲ失シ豫定ヲ二十五日ニ延期シタル処
事件発覚事前ニ阻止セラレタリ

(五) 一部民間側ニテハ本件ノ背後ニ軍部ノ關係アリトノ風説
アルモ右ハ事実無根ニシテ金錢ノ如キ全部張宗昌ヨリ出
テタルコト明カナリ

(六) 現ニ檢束中ノモノハ田原、山城、津田ノ三名ニシテ津田
ノ同行セル浪人二名並ニ(三)所掲鮮人三名ハ行先不明、吉
井小日向ハ大連滞在中ニ付大連警察ニテ逮捕方依頼済ナ
リ

(4) 事情前記ノ通ニシテ浪人ノ策動カ我方対支政策ノ遂行ニ累
ヲ及ボス事大ナルハ単ニ本件ノミニ鑑ミルモ極メテ迷惑ノ
儀ト思考セラルル次第ニシテ本官ニ於テ之カ撲滅策トシテ
ハ在留禁止処分ヲ仮借ナク断行スル以外ニ手頃ノ方策無シ
ト確信シ居ルハ客年往電第七二一号進言ノ通ナリ殊ニ対滿

(1) 往電第一五七号ニ関シ

(一) 其ノ後ノ取調ニ依レハ本件計画ハ前電所報以上ニ大仕掛
ノモノニシテ田原ノ自白ニ依リ雷管五百個同人宅ニ隠匿
シアリシヲ発見目下警察側ニテ現物取寄中ナリ尚同人ハ
右ノ外導火線六百尺ヲ隠匿シ居ル旨自白セルモ末タ所在
不明ニテ右兩物件ハ何レモ山城カ吉井ヨリ受取り奉天ヘ
持参セルモノナリ尚附屬地内八幡町永井病院ノ塵芥箱ニ
「ニッケル」製ノ長方形爆破用雷管三十六個(火薬ヲ装
填シアリ) 抛棄シアアルヲ発見シタルカ右ハ本件計画発見
ノ結果連累者カ抛棄シタルモノト認メラル

(二) 二十六日在大連小日向ヨリ当地山城宛(官憲ニ知レタト
云フ口実テ一時中止スル事ニシテ津田ヲ今夜立タセヨ吉
井今夜立ツ) トノ電報アリ津田ノ計画不成功ニ業ヲ煮セ
ル小日向等カ自身当地ニ乗込ム第二次計画決行ノ事ナキ
ヤヲ懸念セラレタル為警戒中ノ処果シテ小日向、吉井兩
名変装シテ來奉第二次計画協議中ヲ本二十七日午後取押
ヘ目下取調中

(三) 右兩人ノ自白ニ依レハ兩人ハ二十七日朝來奉既ニ城内等
各所ノ実地檢分ヲ了シ二十七日午後七時ヲ期シ再度決行

ノ豫定ニテ馬賊一五八名ヲ城内ニ潜伏セシメ居リ其ノ計画ニ依レハ第一次ニ電燈所ヲ破壊シ城内ノ暗黒ニ乗シ所在ニ事ヲ挙ケ表面馬賊ノ仕業ノ如ク装ハムトシタルモノノ如シ

尚小日向ノ言ニ依レハ城内潜伏ノ馬賊ニ対シテハ午後七時迄ニ事ヲ傳達セサレハ中止スヘキ旨言渡シアル趣ニテ本件計画ハ支那側ニ於テモ薄々探知シ居ルカ如ク最近兩三日城内ノ警戒極度ニ厳重ナルヲ以テ事端ノ発生ナキ以上馬賊ノ城内潜伏ハ困難ナルヘク勢ヒ附屬地ニ侵入ノ上暴挙ニ出ツルノ虞少カラス小日向モ此ノ点ヲ懸念シ居ルヲ以テ目下警察側ニ於テハ全力ヲ挙テ附屬地ノ警戒ニ当リツツアリ

(欄外記入)

関東庁長官へ転電セリ

(欄外記入)

北京、青島、濟南、芝罘、上海、南京へ転電シ在滿各領事へ暗送スミ(奉天ヨリ)

ニ同地ヲ引揚ケタルコト此ノ種支那人ノ個人的往来ハ南北何レノモノタルヲ問ハス許シ居ル次第ニテ日本側ニ於テ阻止シ得サルコト(一)先般張莊地方ニ於テ同盟軍ノ伝單ヲ撒布シ募兵シ居リタルモノアリタルニ付日本軍ハ即時撤去セシメタルコト(二)張敬堯ハ金水旅館ニ宿泊シタルコトアルモ同地ニ司令部又ハ事務所ヲ設ケタル事実ナキコト等適宜説明シ尚張宗昌ノ反動運動ニ対スル出先官憲ノ取締方針(濟南發青島宛電報第二六号)及日本浪人ノ退去ヲ命シタル事実(芝罘發関東庁宛電報第一〇号)等ヲ指摘シ然ルヘク我方ノ公正ナル態度ニ付説明セシメ置キタルカ二十八日ノ当地漢字紙ハ周ノ談話トシテ右堀内説明ノ概要ヲ掲載セリ御参考迄

在支公使、青島、濟南、芝罘、南京へ転電セリ

795 昭和4年3月(1)日

在奉天林總領事より
田中外務大臣宛(電報)

対蔣介石等暗殺陰謀も本邦浪人一味の画策なる旨小日向自白について

794 昭和4年2月(28)日

在上海重光總領事より
田中外務大臣宛(電報)

周龍光より張宗昌一派の濟南方面における策動に関する注意喚起方申出に対し日本側は同派の活動に公正な態度なる旨説明したとの芳澤公使報告

上海 発

本省 2月28日後着

第二一一号

芳澤公使ヨリ

二月二十二日周龍光上村領事ヲ来訪ノ際張宗昌ノ策動ニ関シ支那側ノ得タル情報ニ依レハ(一)張魯泉ハ張宗昌ノ命ヲ受ケ濟南ニ於テ活動シ居リ(二)張莊及營垣ニハ同盟軍ノ伝單多数アリ又(三)張敬堯ハ同盟軍ノ司令トシテ濟南ニ司令部ヲ置キ金水旅館ニ事務所ヲ設ケ居ル由ナリ別段抗議スル次第ニハアラサルモ右公使ニ傳達ノ上注意ヲ喚起セラレタシト申出タル趣ナルカ偶々二十六日濟南駐在武官和知大尉本使ヲ来訪セルニ付実狀聴取ノ上同日夜周龍光来訪ノ際堀内ヲシテ同大尉ノ報告ニ基キ(一)張魯泉ハ先般濟南ニ来リタルモ既

奉天 発

本省 3月1日前着

第一六四号

往電第一五九号ニ関シ

小日向取調ノ結果彼等一味ハ豫テ小日向ヲ首領トシ邦人二十五名ヲ以テ白洋社ナル秘密結社ヲ組織シ北京、南京、上海、天津、奉天等各地ニ夫々同志ヲ配置シ居リ往電第一五七号(一)蔣殺害事件モ彼等一味ノ計画ナリシ旨ヲ述ヘ尚往電第一五九号ノ計画実行ノ為岫巖方面馬賊頭目海交及打的好ノ兩名指揮ノ下ニ部下ヲ買収シ各自ニ手榴彈ヲ携帯五人以上同宿セサル事ト為シ城内各所ニ潜伏セシメアリ爆破決行ト共ニ田原ハ直ニ上京政府要路ノ了解ヲ遂ケ同時ニ津田小日向自首ノ手筈ナリシ旨ヲ自白セリ又爆破ノ箇所ハ小西關、大西關、総司令部附近ノ外人畜ニ傷害ヲ与ヘサル程度ニテ日本側二、三箇所ヲモ加ヘ当館モ其ノ内ニ在リタルカ如シ

北平ヨリ天津へ上海ヨリ南京へ青島ヨリ濟南へ転電ヲ請フ天津へハ北平ヨリ電報一括転電セシメタリ
北平、芝罘、上海、青島、関東長官ニ転電シ在滿各領事ニ

暗送セリ

796 昭和4年3月(3)日

在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

藤岡関東庁警務局長の放言に対する批難につ
いて

奉天 発

本省 3月3日後着

第一七九号(極秘)

往電第一七七号ニ関シ

三浦外事課長ノ関東長官宛電報ニ依レハ藤岡警務局長ノ言
動ハ政府累次ノ御訓令ヲ無視スルノ甚シキモノニシテ警察
ノ威信ヲ保持スル為ニハ敢テ外交方針ニ背致スルモ憚ラス
ト放言スルニ至リテハ暴言ノ極ト言フヘク斯ノ如クンハ当
地方ニ於ケル将来ノ対支政策ノ遂行上寒心ニ堪ヘサルモノ
アリ滿洲ニ於ケル諸機關カ政府ノ訓令ヲ体シテ能ク協調シ
一致ノ行動ニ出ツルノ肝要ナルハ此処ニ贅言ヲ待タス辛ニ
昨年本官着任以来出先各機關ノ聯絡協調ハ過去ニ比シ頗ル
優レルモノアリ邦家ノ為私ニ慶事トナシ居リタルモ関東庁

797 昭和4年3月(5)日

在上海重光総領事より
田中外務大臣宛(電報)

藤岡関東庁警務局長の言動は国民政府との懸案
交渉上に甚だ不利益を来す懼れあるにつき我が
出先官憲の行為嚴重取締方芳澤公使意見具申

上海 発

本省 3月5日後着

第二三〇号(極秘)

奉天発閣下宛往電第一七九号ニ関シ

芳澤公使ヨリ

関東庁ヲ支那人ノ政治的策源地タラシメサル帝國政府年来
ノ方針ハ夙ニ迭次訓令セラレ居ル処ナルニ拘ラス過般関東
庁当局カ張宗昌策動ノ具体化シ居ルヲ知リツツ殊ニ多数ノ
部下ヲ率ヒ公然日本船ニテ同地ヲ出発シタルニ対シ事前ニ
何等取締又ハ阻止ノ措置ヲ講シタル形跡無キニ対シテハ
(関東庁発閣下宛往電外第二二二号及外第二四号)當時本使
ニ於テ頗ル奇異ニ感シ居リタル次第ナルカ今回奉天発閣下
宛第一七七号藤岡警務局長ノ言動ハ閣下発関東庁宛第二九

最重要ノ部局ヲ支配スル藤岡局長ノ行動ニハ着任以来不可
解ノ点鮮カラス昨年六月初旬列車爆破事件ノ後本官カ警察
署長ニ対シ浪人連ノ陰謀計画ニ対シ嚴重取締ヲ加フヘキヲ
命シタルニ同局長ハ是ニ手加減ヲ用キヨト内命シ遂ニ同月
十日夜ノ商埠地爆彈投下(客年往電第三〇九号)ヲ防キ得
サリシカ如キ

或ハ更ニ吉会線交渉ニ関スル新聞記事掲載禁止ハ元來本官
ノ希望ニ基ケルモノナルニ拘ハラス十日ニ至リ客年往電第
六五〇号ノ通滿鉄ニモ本官ニモ打合セルコトナク独断ニテ
解除セル如キ同局長ニ果シテ在滿諸機關協調ノ誠意アリヤ
ヲ疑ハシメタルカ三浦課長ノ電報ニ依ル今回ノ言動ノ如キ
ハ帝國政府ノ対支外交ヲ裏切ルノ甚シキモノニシテ之ニ嚴
重ナル取締ヲ加フルニ非スンハ今後如何ナル不利ヲ醸スヤ
頗ル憂慮ニ堪ヘサルモノアリ東三省ニ於ケル日支關係愈
益々重大性ヲ帯ヒ来レル今日帝國政府ノ方針ヲ裏切ルカ如
キモノハ官民何レヲ問ハス之ヲ排除スルノ必要アリト思考
セラルルヲ以テ政府ニ於テモ此ノ際同局長ニ対シ速ニ嚴重
ノ御処置アラン事希望ニ堪ヘス

在上海芳澤公使へ転電セリ

号及合第一一四号御訓電ノ直後ナルニ拘ラス明ニ右御訓令
ノ趣旨ニ悖リ宛然故意ニ政府ノ方針ニ違反スルヲ憚ラサル
ノ感ヲ抱カシムルノミナラス在滿諸機關協調ノ趣旨ヨリ見
ルモ極メテ遺憾トスル次第ナリ殊ニ目下本使ハ國民政府ヲ
相手トシテ諸懸案ノ交渉ニ從事シツツアル際ニシテ支那側
ニ於テハ張ノ山東ニ於ケル拳事ニ対シ恰モ日本カ之ヲ援助
シ居ルカ如キ疑惑ヲ抱キ居ル折柄関東庁当局カ前記ノ如キ
行動ニ出ツル事ハ益々支那側ノ疑念ヲ深カラシムル事トナ
リ交渉ノ前途ニモ甚タ不利益ヲ来ス懼アリ旁此ノ際政府ト
シテハ出先官憲ノ此ノ種政府ノ根本方針ヲ無視スルカ如キ
行為ヲ嚴重取締ルト共ニ從來ノ方針ヲ此ノ上トモ各機關ニ
徹底セシムル様一層適切ナル措置ヲ講セシムル事ヲ希望ス
北平、奉天ニ転電セリ

798 昭和4年3月5日

田中外務大臣より
在奉天林総領事宛(電報)

張宗昌等の拳兵と本邦浪人の奉天城内擾乱計
画との關係に関する新聞記者への説明振りに
ついて

貴電第一五三号並第一五七号ニ関シ

四日奉天発国民特電ハ張宗昌顧問小日向外日支人十数名馬賊頭目徳同豊ト気脈ヲ通シ三月一日夜半ヲ期シ奉天電燈所ヲ襲ヒ城内ヲ暗黒ニシ一味ノ便衣隊百餘名ヲシテ主ナル官衙等ニ爆彈ヲ投セシメ暴民ノ蜂起ヲ誘ヒ奉天城ヲ乗取ラムトノ陰謀ヲ企テタル処総領事館警察ニテ之ヲ探知シ一個打尽目下極秘裡ニ取調中一味ノ用意セル爆彈百五十個非常ニ強力ノモノナリ云々ト報シタ刊日々ハ右ト偶開カレタル同日午前ノ本省幹部会議トヲ結ヒ付ケ何等意味アリケニ報道セリ事情右ノ通ナルヲ以テ已ムナク係官ヲシテ本邦新聞記者トノ定例会見ノ際張宗昌ハ彼ノ挙兵ニ対シ支那各地ニ呼応スルモノ続出スルカ如キ宣伝ヲ行ヒ居ル形迹アリ本件モ亦其一手段ト思ハルカ右關係者ハ小日向、田原外一名ノ邦人及鮮人二名許ノ小規模ノモノニテ兇戲ニ類スル爆彈騒ヲ演シ声ヲ大ニシテ彼ノ挙兵ニ対シ滿洲ニ於テ大ナル反響アリタルカ如ク装ハムトシタル惡戯ニ過キス從テ宣伝ノ効果ヲ大ナラシムル為ノ我方官憲ノ諒解アリタルモノノ如ク

之等反動軍隊ノ指揮訓練等ヲ為ストノ説アル処日本軍ハ曩ニ何種ノ軍隊ヲ問ハス濟南及沿線二十支里内ニ侵入セシメストノ宣言ニ反シ張敬堯、張魯泉等カ該範圍内ニ於テ支那正規軍ノ掃蕩シ得サルヲ奇貨トシ公然活動セルハ明ニ日本軍カ此ノ種叛逆軍ヲ庇護シ我國ノ内乱ヲ助長スル嫌疑アルヲ免レス右ハ大局ノ治安ニ重大ナル影響アルヲ以テ嚴重之ヲ制止アリタク尚之カ為意外ノ事件發生セル場合ハ日本側ニ於テ之カ一切ノ責ヲ負フヘキモノナリト抗議シ来レルヲ以テ軍側トモ協議ノ上我方カ警備区域内ニ於ケル治安維持ノ見地ヨリ措置シ居レル反動運動取締リ方針ノ要旨並右ニ基キテ我方ノ当地附近ニ於ケル反動分子トモ認メラルヘキ雜色団体ニ対スル取締リ振リノ実例大要ヲ挙ケ(往電第四五号参照) 敵正ナル我態度ヲ説明シ且張魯泉ハ既ニ二月二十一日当地ヲ去リ張敬堯ハ前ニ金水旅館ニ宿泊シタルコトアルモ事務所等ノ機関ヲ設ケタルカ如キコト絶対ニナク既ニ同旅館ニ宿泊シ居ラス次ニ日本官憲カ雜色軍隊ニ対シ指揮訓練云々ノ如キハ全然事實無根ニシテ前述ノ如ク我方ニ於テ嚴重取締リヲ勵行シ居ルニ拘ハラス如斯無根ノ事柄ニ對シ輕々抗議アリタルハ本官ノ意外トシ且了解シ難キ次第

触レ廻ルヤモ知レサルカ全然事實ニ反ス一味ハ目下奉天總領事館ニテ取調中ニテ真相未タ詳カナラスト非公式ニ輕ク説明セシメ置ケリ御含迄猶貴電第一五七号並第一六四号上海へ転電アリ度

北京、芝罘、青島、濟南、上海、関東庁長官ニ転電シ在滿各領事へ暗送アリ度シ

799 昭和4年3月(8)日 在濟南西田總領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

崔交渉員より公文で日本軍憲が濟南および膠濟沿線における張宗昌等の反動運動に關し庇護を与えていたとの抗議について

濟南 發

本省 3月8日後着

第四八号

上海発閣下宛電報第二一一号ニ関シ

崔交渉員ヨリ二月二十七日附公文ヲ以テ濟南及膠濟沿線ニ於ケル張宗昌ノ反動運動ニ關シ周龍光カ上村領事ニ語リタルト略々同様ノコトヲ述ヘ且二十支里内ニ於テ日本軍憲カ

ニシテ断シテ承認シ難キ所ナリ斯ル事實無根ノ事柄ヲ如何ナル筋ヨリ報告シタルヤ嚴重御取調ノ上然ルヘク措置アリタキ旨八日反駁的ニ回答シ置ケリ
在支公使、青島、上海、南京へ転電セリ

800 昭和4年3月(10)日 木下関東長官より
田中外務大臣宛(電報)

高松丸臨検に關し今後我が方の対処方につき上申

関東庁 發

本省 3月10日前着

外第三一号(至急)

三月七日東北海軍測量局長姚葵常少将カ呢懇ノ間柄ナル久保田海軍駐在武官ニ対シ日本船舶検査方ニ関シ内話ノ次第ハ同官發海軍次官次長宛二一六電ニ依リ御承知ノコトト存スル処六日夜大連出帆登州ヲ經テ龍口ニ向ヒタル高松丸カ九日大連ニ帰港シ報告スル処ニ依レハ同船カ七日午前八時登州ニ到着シタル際同港ニ碇泊中ノ支那軍艦定海乗組ノ将校一名卒五名同船ニ臨検シ同船乗客タル張宗昌一派ノ馬海龍及其ノ一行ヲ拉致セムトシタルカ山下船長ノ抗議ニ依リ

其ノ儘立去レリト言フ右支那側ノ行為ハ從來ノ実例並ニ現存条約上ノ見地ヨリ明カニ不法ト認メラルルニ付テハ右事
実ニ対シ嚴重抗議スルト同時ニ今後同様ノ事件発生ノ曉ニ
ハ我方ニ於テ断乎タル処置ニ出ツルコト必要ナリト思料ス
北平ヨリ天津へ、青島ヨリ濟南へ上海ヨリ南京、漢口へ転
電ヲ請フ

北平、青島、芝罘、上海、奉天へ転電セリ

801 昭和4年3月11日 在芝罘森岡領事より
田中外務大臣宛(電報)

大連汽船龍平丸が東北艦隊所屬の定海に臨検
を受けたことについて

芝罘 発

本省 3月11日前着

第五二号

往電第五一号ニ関シ

大連汽船龍平丸ヨリ前二回登州ニ於テ支那軍艦ノ臨検ヲ受
ケタル趣ナルカ今日迄ノ処何等暴行等ノ事実ナシ尚臨検ハ
沈鴻烈ノ麾下ニアル東北海軍ノ発意ニ依ルコト並定海ハ同

艦隊所屬艦ナルコト判明セルモ右ハ沈カ張學良ノ命ニ依リ
国民政府ニ対スル申訳上張宗昌ヲ監視スルカ如クニ装フ一
種ノ形式的手段ナルヤニ察セラル我海軍側ニ於テモ同様觀
測セリ

上海ヨリ南京へ転電ヲ請フ

在支公使、奉天、青島、上海、牛莊、関東長官へ転電セリ

802 昭和4年3月13日 田中外務大臣より
木下関東長官宛(電報)

中国海軍の日本船舶臨検を不法行為として排除
すべきは勿論、張宗昌関係者其の他政治亡命者
の取締についても万違算なきを期するよう訓令

本省 3月13日後8時発

第三〇号

貴電外第三一号ニ関シ

貴電末段ノ如キ方針ニテ措置スヘキコト勿論ニシテ右海軍
側トモ打合済ナルニ付御含アリ度シ

元来本件類似ノ場合ニ於テ日本船舶ノ臨検ヲ許容セズ必要
アラバ強力ヲ以テ之ヲ阻止スルコトハ帝国政府從來ノ方針

に警告について

関東庁 発

本省 3月15日後着

外第三四号

第九駆逐隊司令ハ二遣司令官ヨリ定海座乗ノ沈鴻烈ニ面会
ノ上(一)邦船臨検ハ不法行為ナルカ故ニ絶対ニ許容セス(二)即
時臨検ヲ禁止シ東北艦隊全体ニ布達徹底セシムル事(三)前二
項ニ対シテハ将来ノ保障ヲ得ルコト(四)今後再ヒ臨検ヲ行フ
ニ於テハ断乎タル処置ヲ執ルコトアルモ帝国海軍ハ其ノ責
ヲ負ハサルコト等ヲ声明シ警告ヲ与フヘキ旨命令ニ接シ椿
ニ座乗十五日早朝旅順ヲ出発芝罘ヲ抜錨セル樺ト合シタル
上廟島又ハ龍口ニ定海ヲ求メ右命令ヲ執行スル筈ナリ右ニ
付久保田駐在武官ハ十五日旅順碇泊中ノ威海艦長ニ対シ為
念同様ノ趣旨ヲ以テ警告ヲ与ヘタルニ依リ同艦長ハ之ヲ諒
トシ且臨検ニ付テハ沈司令ヨリ未タ何等ノ命令ニ接シ居ラ
サル旨答ヘタル趣ナリ同艦ハ二十日頃錨地ニ向ケ出港ノ筈
支、青島、芝罘、上海、奉天へ転電シ上海ヨリ南京へ転電
ヲ請フ

803 昭和4年3月15日 木下関東長官より
田中外務大臣宛(電報)

邦船臨検に關し海軍側より定海座乗の沈鴻烈

804 昭和4年3月20日 在芝罘森岡領事より
田中外務大臣宛(電報)

龍口日本人会長佐野の張宗昌、劉珍年間和議
斡旋に関する森岡領事意見

芝罘 発
本省 3月20日後着

第六一号

龍口日本人会長佐野恭ハ張魯泉ノ依頼ヲ受ケ張宗昌劉珍年間和議斡旋ノ為本二十日大連ニ来リ和議ノ見込並芝罘ニ来ルコトノ可否ニ関シ電報ニテ本官ノ意見ヲ徴シ来レルニ依リ本官ハ日本人カ本件ニ関係スルコトハ面白カラサル旨返電シ置ケリ

上海ヨリ南京ヘ転電ヲ請フ

在支公使、奉天、天津、上海、青島、濟南、関東長官ヘ転電セリ

805 昭和4年3月20日 木下関東長官より
田中外務大臣宛

東北海軍の邦船臨検に關し我が第九駆逐隊司

邦船臨検ニ関シ本日当地所在先任指揮官定海艦長代理ト会见ノ状況左ノ如シ

一、過日海鵬艦長大連ヨリ赴任ノ通知アリシヲ以テ定海ハ高松丸及ヒ信濃丸登州入港ニ際シ其ノ迎ヒヲ同船ニ派遣セシ事アルモ武装兵乗船シ臨検シタル事無ク又其ノ節拉致セントシタルカ如キ事覺エモ無シトテ臨検ノ事実ヲ否定セリ

二、張劉ノ戦争ニ関シ東北海軍ノ態度ヲ正シタルニ目下陸戦ニハ無関係ニシテ確タル事ハ沈ニ聞カサレハ言明スル能ハス又沈鴻烈ノ所在ヲ確メタルニ江利ハ十三日青島ヨリ来港セルモ沈乗船セス今ノ所彼ノ居所ヲ確知セスト答ヘタリ

三、二遣電令五ノ主旨ヲ覚書トシテ交付シ所在支那軍艦ニ對シ今後邦船ノ臨検ヲナササル様要求セシ処沈ノ命令アルニ非サレハ応諾スル能ハサルモ即刻無電ニテ指令ヲ仰クヘシト答ヘタ之ヲ要スルニ定海艦長代理ハ過日ノ邦船臨検ヲ否定スルノミナラス将来ノ保障ニ對シテモ甚タ曖昧ナル態度ヲ示シ応答要領ヲ得サルニ付キ只今入港セル楚豫艦長ト尚一応交渉スル考ナリ(十五日)

令と定海艦長代理および楚艦長との会見状況
について

関機外第一四一号 (3月28日接受)

昭和四年三月二十日

関東長官 木下 謙次郎(印)

外務大臣男爵 田中 義一殿

支那軍艦ノ邦船臨検ニ関シ我駆逐艦出動ニ関スル件

第九駆逐隊司令カ第二遣外艦隊司令ヨリ命令ヲ受ケ駆逐艦椿ニ座乗シ龍口方面ニ出動シタル件ニ付テハ拙電外第三四号ヲ以テ申進致置候処其ノ後第九駆逐隊司令ヨリ久保田武官宛大要別紙写ノ通電報有之候趣ニ付右御参考迄及送付候

敬具

本信送付先 在支公使、青島、芝罘、上海、南京、奉天

各領事

(別紙)

昭和四年三月十五日着

第九駆逐隊司令発

久保田駐在武官宛

(別紙)

昭和四年三月十六日着

第九駆逐隊司令発

久保田駐在武官宛

今夕楚豫艦長ト会见小官先ツ支那ノ内乱ニ對シテハ我官憲ハ常ニ公平不干渉ノ態度ヲ持シ嚴重邦人ノ取締リニ任シツツアル次第ヲ説明シ次ニ張對劉ノ各地区ノ如キ区々タル地方的争乱ニハ全く無関心ノ貴国海軍カ近来屢々無法ニモ邦船ヲ臨検スルカ如キ暴挙ヲ敢エテスルハ全く不可解ニシテ年来我海軍ト親交アル東北海軍ノ為誠ニ遺憾トスル旨ヲ述ヘ念ノ為ニ二遣電令第五ニ依ル警告ヲ覚書キトシテ交渉セルニ彼ハ頗フル恐縮ノ体ニテ沈司令ヨリ臨検ヲ命セラレタルヲ聞カス定海ノ行動ハ早速取り調ヘ通知スヘキモ恐ラク普通ノ訪問ヲ商船ニテ臨検ト誤解セルモノナラン仮リニ事実トスルモ本件ニ関シ将来ノ保障ヲナス権能ナキヲ以テ至急警告ノ要旨ヲ電報ニテ在奉天海軍總司令処ニ伝達スヘシト答ヘ当地ニハ今ノ所沈司令ノ所在不明ナリトイフ明日椿ヲ龍口ニ派遣シ小官樺ヲ率ヒ一先ツ旅順ニ帰航セントス

806 昭和4年3月(21)日 在上海重光総領事より
田中外務大臣宛(電報)

白崇禧乗込みの大連丸を臨検捜査方中国側警備司令部および公安局より申出について

上海 発
本省 3月21日後着

第三三三号

白崇禧十九日大連出帆ノ大連丸ニ乗込ミ当地ニ向ヘル旨ノ情報支那側ニ到達シ吳淞通過ノ際ハ当地警備司令部ニ於テ臨時捜査スル手筈トナリ居ル趣二十日夜聞込ノ次第アリタルニ依リ同夜海軍駐在武官及大連汽船支店長ト協議ノ上同支店長ヨリ大連丸船長ニ無線ヲ以テ一応ノ注意ヲ与ヘ置キタル処二十一日午後二時警備司令部副官長及当地公安局第二科長来訪シ大連丸ニハ共產黨員二名乗込ミ居ル疑アルヲ以テ吳淞ニテ臨検捜査致度ニ付了解ヲ得度旨申出ノ次第アリタリ依テ申出ノ事情ハ了解シタルモ本件ハ主義ノ問題ニテモアリ日本船舶ノ臨検捜査ハ絶対ニ承諾シ得ス尤モ当方ニテハ出来得ル丈捜査シ必要ト信スル措置ヲ採ルヘキ旨答

頭山満ヨリ目下貴地警察ニ逮捕セラレアル田原天牛ノ身元ヲ保障スルニ付何トカ同人ノ釈放ヲ得タシト申出アリタリ就テハ御詮議ノ結果何分ノ義回電アリ度シ

808 昭和4年3月(22)日 在奉天林総領事より
田中外務大臣宛(電報)

奉天城内攪乱を企図した本邦浪人の国外退去処分について

奉天 発
本省 3月22日後着

第二四二号

往電第一五七号ニ関シ

本件関係者ノ処分ニ付テハ慎重考慮ヲ遂ケタル次第ノ処検事務取調ノ状況ニ鑑ミルニ同人等ヲ起訴スル時ハ審理進行ニ伴ヒ事件ノ真相自然外間ニ洩ルル懼アリ且少ナクトモ判決ニハ或程度ノ事実ヲ記載スルコト必要ナル為本件ニ関シ未タ具体的事実ヲ知ラサル一般支那官民ニ我方ヨリ進ンテ疑惑ノ念ヲ与ヘ列車爆破其ノ他既往ノ諸事件ト相関聯シ本邦ノ立場ニ付徒ラニ面白カラサル感触ヲ与フル結果トナ

ヘタルモ兩人モ其ノ儘引取りタルカ他方支那側ハ約三十名ノ兵ヲ「ランチ」ニ搭載シ吳淞ニ派遣シ捜査ヲ強行セムトシ居ル旨ノ情報アリタルニ依リ万一ノ場合ニ備フル為必要ノ準備ヲ整ヘ置キタル処同船ハ何等支障ナク入港シタルニ依リ同船ニ付一応取調ヘタルモ白崇禧ラシキ者ノ乗船シ居ラサリシ趣ナリ

右ニ依ルモ明カナル如ク最近時局逼迫ノ折柄支那側ハ外国船ノ臨検捜査ヲモ強行シ兼ネマシク其ノ結果面白カラサル事態ヲ惹起スル虞アルニ付関係ノ向ニ於テハ乗船者ニ付豫メ充分ノ注意ヲ払フノ要アルヘシト存セラル
北平、南京、青島、廣東、関東庁ヘ転電セリ

807 昭和4年3月22日 田中外務大臣より
在奉天林総領事宛(電報)

目下奉天警察に逮捕中の本邦浪人釈放方頭山満より申出に関する森政務次官電報

第五三号
本省 3月22日後2時発
森政務次官ヨリ

ルノミナラス本件関係者等ハ支那ニ居住セシメサルニ於テハ今回ノ如キ不穩計画ヲ企図スルモノニ非スト認メララルニ付司法処分ニ依ラス関係者十四名全部ニ対シ彼等ニトリ極刑トモ認メ得ヘキ支那在留禁止ヲ命スルコトシ本二十日発令セリ尚関東庁ニ於テモ長官ノ決裁アリ次第関東州在留禁止ヲ命スルコトニ打合済ナリ委細郵報

809 昭和4年3月23日 在奉天森島総領事代理より
田中外務大臣宛

登州における東北軍艦の邦船臨検に關し王遼寧交渉署長との往復文送付について

機密公第三〇四号 (3月29日接受)

昭和四年三月二十三日 在奉天

外務大臣男爵 田中 義一殿 総領事代理 森島 守人(印)

登州ニ於ケル支那軍艦ノ邦船臨検ニ関スル件
本件ニ関シ往電第二〇七号所報ノ如ク当地交渉員ニ対シ別紙甲号ノ通申入置キタル処別紙乙号ノ通臨検シタルモノニ

アラサル旨回答シ来リタルニ付更ニ別紙丙号ノ通反駁致置キタリ

右一応報告ス

本信写送付先 関東庁、在支公使、青島、上海各総領事

芝罘領事

(別紙甲号)

公文第一五六号

昭和四年三月十一日

在奉天

総領事 林 久治郎

遼寧交渉署長 王 鏡實殿

拜啓陳者木下関東庁長官ヨリノ来電ニ依レハ帝國商船高松丸カ三月六日夜大連出帆龍口ニ赴ク途次七日午前八時頃登州ニ入港スルヤ碇泊中ノ貴国軍艦定海ノ乗組將校一名卒五名ハ同船ニ臨檢シ乗客タル貴国人馬海龍及其同伴者等ヲ拉致セントシタルカ該船長ノ抗議ニヨリ之ヲ果サスシテ引揚ケタル趣ニテ又在芝罘森岡領事ヨリノ来電ニ依レハ帝國商船龍平丸モ登州港ニ於テ右ト相前後シテ二回ノ臨檢ヲ受ケ

呈稱中國軍艦於日輪到登時僅派遣隊附一人前往該船訪探消息並無將卒多名登輪檢査之舉日方所稱各節與事實不符顯係誤會等情合行仰該員即便遵照轉復日領査照可也等因奉此相應函復

貴總領事煩即査照爲荷此致

大日本總領事林台鑒

外交部特派遼寧交渉員 王 鏡實

中華民國十八年三月二十日

(別紙丙号)

公文第一七九号

昭和四年三月二十三日

在奉天

総領事代理 森島 守人

遼寧交渉署長 王 鏡實殿

拜啓陳者登州港ニ於テ貴国軍艦カ帝國商船ヲ臨檢シタル件ニ関シ本月十一日附公文第一五六号拙信ヲ以テ申入置候処本月二十日附公函第四五〇号ヲ以テ支那軍艦ハ日本商船登州入港ノ時僅カニ隊附一人ヲ該船ニ派遣シテ消息ヲ訪探セ

タリトノコトナリ査スルニ本件貴国軍艦定海ハ東北江海防総司令部ノ所屬ニ係ルモノナルニ右ノ如ク条約ヲ無視セル行為ヲ敢テシ貴我兩國ノ邦交ヲ破壞スルハ本官ノ認容シ能ハサルトコロニ候間速カニ前記軍船ノ既成不當行為ニ関シ適當ナル処置ヲ執ラルルト共ニ今後ノ類似事件發生防止ニ必要ナル敕令ヲ発セラルル様當該江海防総司令ニ至急御転達ノ上何分ノ儀御回報有之度尚又本抗議ニモ拘ラス貴国軍艦カ依然帝國商船ノ臨檢ヲ繼續敢行セラルル場合ニハ我方ニ於テ適當ナル処置ニ出ツルコトアルヘキヲ豫メ茲ニ声明致置度此段申進候 敬 具

(別紙乙号)

第四五〇号

公函爲奉令爲海軍検査日商船情形

由

外交部奉天交渉署公函

敬復者關於査詢我方定海軍艦有無検査貴方商船情事一案接准

貴總領事第一五六號來文當經轉呈東北邊防軍司令長官公署核示在案茲奉指令內開呈悉査此案經飭據海軍副司令沈鴻烈

シメタルニ止マリ多数ノ將卒カ該商船ニ登リテ検査シタル事実ナク我方ノ申入レハ事実ト符合セス顯ニ誤會ニ係ルトノ旨御回答越ノ趣拜承致候然ルトコロ本官ノ接到セル確報ニ依レハ

(一)三月八日大連ヨリ登州ニ入レル高松丸ハ陸地ヨリ約二哩半ノ海面ニ碇泊中同日午前八時頃貴国軍艦定海派遣ノ將校一名卒五名ノ登船臨檢ヲ受ケ尚ホ右將卒ハ乗客タル貴国人馬某及其同伴者等ヲ拉致セントシタルモ該船長ノ抗議ニヨリテ之ヲ果サスシテ引揚ケタリ

(二)三月五日大連ヨリ登州ニ入レル龍平丸ハ陸地ヨリ約一哩ノ海面ニ碇泊中貴国軍艦ノ將校一名下士一名卒四名短艇ニ乗リテ来リ其内一名ノ將校ハ同船ニ登リ支那人船員ヲ通シテ露西亞人船客ノ検査ヲナス旨申出テ該船長ハ船客中ニ外国人無キ旨ヲ答ヘタルトコロ該將校ハ約三十分位「デツキ」ヲ歩キ廻リタル後下船シタリ

(三)三月六日龍口ヨリ登州ニ入レル龍平丸ニハ同日午後三時頃前回同一將校登リ来リテ荷物ノ検査ヲナス旨申出テ該船長ハ荷物ハ野菜ト果物ノミナルモ検査ヲ受クルコトハ甚タ迷惑ナリトナシ且何人ノ命ニヨリテ臨檢スルモノ

ナルカヲ問ヒタルニ自分ハ中立ナリト答ヘ約三十分位ニシテ立去リ

タル趣ニシテ右ハ頭ニ臨檢行為タルコト疑ヲ容ルル餘地ナキニ拘ラス登船將卒ノ少数又ハ檢船程度ノ淺短ヲ口実トシテ我方申入レノ各節ヲ事実ニ相違スト強弁セラルルハ本官ノ承認スルヲ得サル処ニシテ貴國側ニ於テ今後モ前段所述ノ如キ行為ヲ繰返サルルニ於テハ帝國政府トシテハ斷乎トシテ之ヲ阻止スヘキニ付右御含置相成度此段申進候

敬具

昭和4年3月30日

在奉天森島總領事代理より
田中 外務大臣宛

日本商船の張宗昌および所屬部隊輸送に関し

王遼寧交渉署長との往復訳文送付について

公第三二七号

(4月5日接受)

昭和四年三月三十日

在奉天

總領事代理 森島 守人〔印〕

外務大臣男爵 田中 義一殿

日本商船ノ張宗昌及其所屬部隊輸送ニ関スル件
本件ニ関シ別紙甲号訳文ノ通当地交渉員ヨリ照会アリタルニ付別紙乙号ノ通反駁致置キタルニ付御含ミ置キ有之度右報告ス

本信写送付先 関東庁外事課長 芝罘領事

(別紙甲号)

外字第四一号

拜啓陳者東北边防司令長官公署第一九号訓令ニ依レハ海軍副司令沈鴻烈ヨリ今次張宗昌カ衛隊ヲ帶同シテ龍口ニ赴ク際ハ日本船八幡丸ニ搭乘シ又本月初信濃川丸及遼升丸ハ張ノ為メニ露兵百八十餘名ヲ大連ヨリ登州ニ輸送上陸セシメタル事実アリ本職ハ命令ニ依リ右ノ露兵ヲ載留シ内乱ヲ未^{然カ}前ニ防止スヘク四日軍艦定海ヲ登州ニ派遣シタルカ該軍艦ノ登州着後支那汽船ヲ除キ五日日本汽船遼升丸、龍平丸、同六日同高松丸等ノ登州ニ至レルヲ見タリ報告ニ抛レハ遼升丸、龍平丸ハ乘客、貨物極メテ少ナキモ高松丸ハ乘客貨物共ニ満載セラレ居ル趣ニ付該艦代理艦長ハ隊附李和春一人ヲ該船ニ派シ同人船員ニ就キ消息ヲ聴聞セル際軍衣ヲ著

シタル張部師長馬治龍及其衛隊多數乗船シ居ルヲ見タルモ露兵ノ乗船シ居ラサルヲ知り何等検査ヲ行ハスシテ引揚ケタリ然ルニ今般軍艦楚^ツ領艦長ノ芝罘ヨリノ報告ニ抛レハ日本領事及同地駐紮日本海軍將校ハ十日非公式ニ同艦ヲ訪問シ定海艦ハ登州ニ於テ日本船高松丸ヲ検査セルコト及定海艦カ本職ノ管轄ニ属スルヤ否ヤ等ヲ詢問シタリトノコトナリ查スルニ登州水道ハ我國ノ領海ニシテ治安擾乱ノ行為ハ我軍均シク取締ノ責ヲ有スルモノナルカ今次高松丸ハ張ノ為メニ軍兵多數ヲ輸送シタルモ露兵ノ乗船シ居ラサリシタメ敢テ検査ヲ施行セサリシニ拘ラス在芝罘日本領事ノ擅ニ艦ニ到リ質問ヲ行ヘルハ実ニ故意ニ難ヲ構フルモノナリ且ツ今次張部ノ旅大地方ヨリ山東方面ニ赴ケルニ對シテハ日本関東庁ヨリ日本船舶ノ輸送ヲ禁止シ以テ我國ヲ擾乱スルノ嫌ヲ免レントスルノ命令アリタルニ拘ラス日本船舶カ此運送ヲナシタルハ亦タ実ニ関東庁ノ命令ニ違反セルモノナリ依テ必要ノ時機ニ於テ日本領事ニ對シ嚴重抗議ヲ提起シ以テ主權ヲ維持セラレ度シトノ次第報告アリタリ惟フニ張部ノ屢次大連ヨリ登州ニ赴ケルハ均シク日本船舶ノ輸送セルモノニシテ我國ノ内乱ヲ助長セルノ嫌ハ恐ラク解キ難カ

ルヘシ依テ速ニ沈副司令ノ報告ニ根拠シ日本領事ニ對シ嚴重交渉シ主權ヲ維持スヘシ云々トアリ查スルニ貴方八幡丸、信濃川丸及遼升丸等船舶ノ私カニ張部軍兵ヲ輸送セルニ関東庁ノ命令ニ違反スルノミナラス実ニ故意ニ我國ノ内乱ヲ援助セルモノニシテ此等条理ヲ無視セル行為ハ斷シテ默視シ得サル処ナレハ貴總領事ハ速カニ當該官憲ニ轉達シ事實ヲ取調輸送ヲ嚴禁シ以テ國際信義ヲ重セラレ紛糾ヲ免カルル様御取計有之度尚結果何分ノ儀御回示相煩度候

敬具

中華民國十八年三月二十二日

外交部特派遼寧交涉員 王 鏡實

大日本駐奉總領事 林 久治郎殿

(別紙乙号)

公文第一九二号

昭和四年三月三十日

在奉天

總領事代理 森島 守人

遼寧交渉署長 王 鏡實殿

拜復陳者我方商船カ張宗昌及其所屬兵ヲ運送セルハ貴国内
乱ヲ助長スルモノナルカ故ニ此種ノ運送ヲ嚴禁セラレ度旨
本月二十二日附外字第四一號貴信ヲ以テ御申越ノ趣聞悉致
候帝國政府ノ方針ハ屢次聲明ノ通り貴國ノ内乱ニ對シテハ
終始一貫嚴正中立ヲ事トシ居ルハ内外ノ等シク承認スル所
ニシテ過般張宗昌ノ挙事ニ際シテモ何等右ニ變化ナキ次第
ニシテ若シ何等誤會ヨリ何レノ地点タルヲ問ハス貴國軍艦
ニ於テ我方商船ニ對シ臨檢ト認ムヘキ行為ニ出テラルル時
ハ我方ニ於テハ我方当然ノ權利ニ基キ斷乎タル措置ニ出ツ
ルコト已ムヲ得サル儀ト存候条右ニ御承知相成度此段申進
候 敬具

811 昭和4年4月(4)日 在南京岡本領事より
田中外務大臣宛(電報)

王外交部長より張宗昌が敗北の際再び大連方面
へ亡命すると察せられるので日本当局において
張の上陸を禁止する様芳澤公使へ要望について

南京 発
本省 4月4日後着

往電第二四二號ニ関シ

城内爆破事件關係者ニ對スル在留禁止發令ニ際シテハ先ツ
起訴猶豫ノ上發令スルヲ順当ト思考シタルモ右方法ニ依ル
時ハ退去猶豫期間タル十五日間取締上支障アルノミナラス
其ノ政綱ニ照シ再度策動ノ懼アリ且ツ係官ニ對シ張宗昌関
係用務處理ノ為山東渡航計畫アル旨洩シタル次第モアリタ
ルヲ以テ司法処分未決定ノ理由ノ下ニ發令後本五日迄十四
日間未決監ニ收容シ置キ本日起訴猶豫ノ上一律ニ六日大連
發八日門司着ノ「ハルビン」丸ニテ送還方取計ヒタルニ付
取締方關係地方官憲へ御示達相成タシ
尚十四名全部無實力者ナル為送還費約五百六十円立替支出
シ置キタルニ付御含置相成度シ警戒ノ為警部補一名巡查七
名大連迄出張セシメタルニ付御追認アリタシ

813 昭和4年4月(9)日 在芝罘森岡領事より
田中外務大臣宛(電報)

芝罘における学生および商人等よりの張宗昌
の暴状に警告を与えるようとの要請について

第三四七號

本官發上海宛電報第三一一號

芳澤公使へ

往電第三一〇號本官王部長ニ面會ノ際漢寧間並ニ芝罘方面
ノ戦局ニ談及シ張宗昌ハ必ス遠カラス敗北スヘク然ル上ハ
再ヒ大連方面へ亡命スルモノト察セラルル処彼ハ平和ノ攪
乱者ナルヲ以テ日本政府当局ニ於テハ彼ノ大連上陸ヲ禁止
セラルル様特ニ芳澤公使ノ御尽力ヲ煩シ度シトテ曩ニ張カ
大連ヨリ堂々ト山東へ乗出シタル事実ヲ指摘シ今後日本側
ニ於テ再ヒ張ヲ援助スルカノ如キ疑惑ヲ一般支那國民ニ与
ヘラレサル事ヲ希望スト述ヘタリ
大臣、北平、芝罘へ転電セリ

812 昭和4年4月(6)日 在奉天森島總領事代理より
田中外務大臣宛(電報)

奉天城内爆破事件關係者の送還手順について

奉天 発
本省 4月6日前着

第二七〇號

芝罘 発

本省 4月9日後着

第八一號

当地学生及商人全体ノ名ヲ以テセル本月五日附本官宛書面
翌六日当館ニ郵送セラレタル処右ニ依レハ張宗昌ハ中国交
通兩銀行ノ主要職員ヲ監禁シテ銀行業務ヲ停止セシメ紙幣
ノ暴落ヲ招キタルト同時ニ張ノ軍隊ハ武器搜索ヲ口実トシ
テ恣ニ民家ニ侵入シ手当り次第ニ貴重品ヲ掠奪スル等人心
不安ノ極ニ達セルヲ以テ日本領事ハ芝罘市民全体ノ幸福ノ
為ニ此ノ際張ニ警告ヲ与ヘラレタシト記載シアリ依テ英米
領事モ同様ノ書面ニ接シタルヤ取調ヘタル処外国領事側へ
ハ到着セサル趣ナルモ本件ハ上海發本官宛電報第一號ニモ
關係アルニ付本官ハ一兩日中從來昵懇ナル關警察厅长ニ對
シ内政干涉ノ非難ヲ受ケサル程度ニ於テ婉曲ニ好意的注意
ヲ与フル所存ナリ

北平、上海、青島、濟南、奉天ニ転電セリ

814 昭和4年4月(10)日 在芝罘森岡領事より
田中外務大臣宛(電報)

森岡領事の張宗昌に対する個人的忠告伝達方
を芝罘戒嚴司令秘書官に依頼について

芝罘 発
本省 4月10日後着

第八二号

往電第八一号ニ関シ

九日夜当地戒嚴司令秘書官ノ幕僚ニシテ前交渉員「エンキ」本官ヲ来訪セルニ付本官ハ話ノ序ニ同人ニ対シ今回当地支那商学両会ヨリ張宗昌ノ兵カ市内民家ニ侵入シテ掠奪ヲ為ス事及銀行員監禁問題ニ関シ張ニ警告ヲ与フル様請願ヲ受ケタル処本官ハ毛頭内政ニ干渉スル次第ニ非サルモ斯ノ如ク民心ノ離反スルコトハ張宗昌ノ本意ニモ非サルヘキヲ以テ今後充分注意セラルル方宜シカルヘク殊ニ監禁中ノ行員ヲ殺スカ如キ事アリテハ由々シキ人道問題ヲ惹起スヘキニ依リ慘酷ナル処置ニ出テサル方結局張ノ利益ナリト考フルニ付右ノ次第森岡一個人ノ好意的忠告トシテ婉曲ニ秘書官ニ報告シ最近ノ機会ニ張宗昌ニ警告セシムル様取計ハレタシト告ケ問題ノ請願書ヲ示シタルニ「エン」ハ早速秘書官ヲ動カシ牟平ニアル張ニ本官ノ個人的忠告ヲ伝達セシ

非ス尤モ引継ノ都合上或ハ多少延期セラルコト無キヲ保セサルモ右ハ本官ハ全然閑知セサル処ナリト告ケタルニ莊ハ頗ル失望ノ面持ニテ引取りタリ

支、天津、上海、奉天、青島、濟南、関東長官へ転電セリ

816 昭和4年4月(17)日 在芝罘森岡領事より
田中外務大臣宛(電報)

張宗昌および吳光新に対し蔣介石との妥協方
勧告について

芝罘 発
本省 4月17日後着

第九三号(極秘)

往電第九〇号ニ関シ

昨十六日北村莊璟珂同伴牟平ノ手前七里ノ戦線ニ赴キテ張宗昌及吳光新ニ会见シ数時間ニ亘リテ蔣トノ妥協方ヲ勧告セル処張ハ五色旗ヲ撤スルコトハ絶対不賛成ナルト同時ニ妥協ニ関シテハ先ツ蔣ヨリ現金一千万元、小銃一万挺、彈薬五百万発ヲ提供セヨト主張シテ鼻息極メテ荒ク且山東引継ニ関シ蔣、馮兩人近ク必ス衝突スヘク殊ニ山東南部ニハ

ムヘント答ヘ同時ニ銀行員ノ監禁ハ金ヲ出サセル手段ナレハ生命ハ絶対心配ニ及ハスト述ヘタリ

北平、上海、青島、濟南、奉天へ転電セリ

815 昭和4年4月(11)日 在芝罘森岡領事より
田中外務大臣宛(電報)

張宗昌側より日本軍撤兵延期方申出について

芝罘 発
本省 4月11日後着

第八五号

旧安福系及直隸系要人李士浩、曾毓雋、梁鴻志、張英華等四名ハ過般来大連出張中ナリシ吳光新ト共ニ本十一日当地ニ来レリ右ニ関シ莊璟珂本日本官ヲ来訪シ是等要人ハ張宗昌ト重要事件打合ノ為来罘セルモノナル処牟平未タ陥落セサルニ日本軍急遽撤退ノ報ニ接シ一同張ノ前途ヲ悲觀シ居レルカ何トカシテ一、二箇月撤兵延期方日本軍方面ニ手廻シ運動シ度ク考フルモ果シテ如何ノモノニヤト申出タルヲ以テ本官ハ我軍ノ撤退ハ濟南事件解決ニ関スル協定ニ基クモノニシテ張宗昌ノ便宜ノ為ニ左右セラルヘキ筋ノモノニ

既ニ五千ノ土匪軍蜂起シ又吳新田ハ吳佩孚ノ名ニ依リ既ニ西安ニ進出セル等將ニ大動乱ノ徵候アリテ此ノ際日本カ山東ヨリ撤兵スルコトハ事実上不可能ナル事情アリト認ムルニ依リ余ハ此ノ機ニ乗シ發展ヲ計ルヘク前途洋々タルモノアリト豪語セル趣ナリ尚北村ハ張ノ希望ニ依リ本日再ヒ莊ト同行張ニ会见スヘク戦線ニ向ヘリ
上海ヨリ南京へ転電ヲ請フ

817 昭和4年4月(22)日 在芝罘森岡領事より
田中外務大臣宛(電報)

張宗昌は牟平占領後戦況急転のため大連へ退
去方準備中について

芝罘 発
本省 4月22後着

第九八号

往電第九七号ニ関シ

牟平占領後状況急転シ張宗昌軍殆ト全部張ニ裏切りタル為張以下幹部一同本日午後三時当地ニ帰来シ地方官憲ト共ニ

今夜大連ニ避難ス可ク準備中ニシテ市内駐屯軍隊ハ午後全
部市外ニ立退キタルカ今夜襲来奪略スヘシトテ人心恟々タ
リ依テ海軍側ト協議シ在留民保護手配中ナルカ在泊駆逐艦
一隻ノ外更ニ同一隻明早朝来著ノ筈ナリ

818

昭和4年4月26日

藤岡関東庁警務局長より
成毛内閣拓殖局長宛(電報)

張宗昌、吳光新の関東州亡命を阻止について

付記一

昭和五年十月二十九日付幣原外務大臣より太

田閣東長官宛亜一機密第二二〇号公信

張宗昌の本邦退去に関する関係当局間照会に

ついて

二

昭和六年六月六日発中谷関東庁警務局長より

谷(正之)外務省亜細亜局長宛電報第一四九

号

張宗昌の本邦引揚げ準備について

三

昭和六年六月八日発中谷亜細亜局長より中谷関

ノ「アウヘイ」丸ニテ吳光新密ニ来リタルモ上陸ヲ阻止シ
タル結果本日前十時出帆ノ「アメリカ」丸ニテ内地ニ向ヒ
一先ヅ佐賀県佐賀郡東與賀村城口忠八郎方ニ赴ク筈

(付記一)

亜一機密第二二〇号

昭和五年十月二十九日

幣原外務大臣

太田閣東長官

張宗昌本邦退去方ニ関スル件

本件ニ関シ大分県知事ヨリ内務当局宛別紙甲号写ノ通請訓
ノ次第アリタルニ付当省ヨリ内務当局ニ対シ別紙乙号ノ趣
旨ヲ申送り置キタルニ付テハ委曲別紙ニ依リ御諒知相成度
(別添甲号及乙号写取り一部宛添付ノコト)

(別紙甲号)

内務省警保局長宛大分県知事電報

昭和五年十月二十五日午後五時受

亡命客張宗昌帰国方ニ関シ黃錫齡、劉智銘ノ兩名支那公使

東庁警務局長宛電報第四一号
張宗昌の関東州上陸乃至滞在を許し差支なき
意向について

四

昭和六年六月八日発幣原外務大臣より在中国

重光公使、在北平矢野参事官、在奉天林総領
事、在天津桑原総領事、在青島川越総領事、

在芝罘内田領事、在南京上村領事各宛電報合

第三二五号

張宗昌一行の大連向け出発について

五

昭和六年六月十二日付中谷関東庁警務局長よ

り永井外務次官宛関機高支第六四一七号公信

張宗昌一行の帰来について

4月26日 午後3時20分発信局接受

4月30日 外務省写接受

(内閣総理大臣)

牟平ヲ包囲中ナリシ張宗昌ハ劉珍年ニ破レ二十二日芝罘ヲ
經テ營口ニ上陸シ再ビ關東州ニ亡命シ来タラントスル模様
アリ斯クテハ關東州ヲ策源地化スル恐レアリシヲ以テ上陸
禁止ノ方針ヲ樹テ其ノ旨警告シ置キタル処本朝大連ニ入港

ノ諒解ヲ得、本邦外務省トノ交渉ハ同公使ヨリナスコトニ
決シテ帰別シタリ張宗昌ハ張學良ト来月中旬天津ニ於テ会
見ノ上重要ナル地位ヲ得ルコトニ定マリ居ルモノノ如キモ
張宗昌ハ張學良ニ対シ張宗昌ノ帰国前ニ其ノ地位ヲ発表セ
ラレ度シト申込居ルモ未タ其ノ回答ニ接セス張宗昌ハ市原
才助トノ間ニ石友三及孫傳英^(録カ)ノ兩軍用ノ三八式歩兵銃各一
万挺(附屬品及実包五百発附) 売買ノ契約ヲ了セリ、張宗
昌ハ市原ニ対シ更ニ帰国費用トシテ五万円ノ借入方申込ミ
タルニ市原ハ是レヲ承諾シ金策ニ奔走シツツアリ、以上ノ
事実ニ依レハ張宗昌ハ来月上旬中ニ帰国スルニ非サルヤト
思料セラルルニ就テハ本年六月十三日附警保局外発乙第一
三〇号御通牒ノ次第モアリ本邦外務省ニ於テハ帰国ニ対シ
諒解ヲ与ヘラルルヤ豫メ御指示ヲ受度シ

(別紙乙号)

張宗昌ノ行動ニ関スル件

一、張宗昌ノ帰国方ニ関シ在本邦支那公使館ヨリ当省ニ対
シ未タ何等ノ申出ナシ

然レトモ支那政局ノ現況ニ顧ミ今日張宗昌ヨリ帰国方申

出ツル場合ニハ同人ノ本邦退去ヲ差止ムル意向ナシ
尚張宗昌ニシテ平地ニ波瀾ヲ起スカ如キ行動ニ出テサル
限同人ノ關東州上陸モ之ヲ阻止スル意向ナキニ付同人本
邦退去ニ際シ若シ大連立寄方願出ツル場合ニハ之ヲ承認
セラレ差支ナシ為念

二、張宗昌帰国ニ当リ本邦人ヨリ武器ヲ購買スル場合同人
ニシテ国民政府ノ武器輸入護照ヲ所持スルトキハ之ヲ阻
止スル限ニアラサルモ右正規ノ手続ヲ經スシテ本邦人ト
ノ間ニ武器購入契約ヲ結フ場合ニハ内務大臣ニ請求シ該
武器ノ本邦輸出ヲ差止ムル意向ナリ

(付記二)

關東庁 昭和6年6月6日後発
本省 昭和6年6月6日後着

第一四九号

大分県知事ヨリ張宗昌来ル八日別府引揚ケ当地ニ向フ準備
中ナリトノ電報アリ何等カ承リ置ク事ナキヤ

(付記三)

本電及別電宛先 代理公使北平奉天天津青島芝罘南京

編注 前掲(付記三) 参照

(付記五)

関機高支第六四一七号

昭和六年六月十二日

(6月17日接受)

關東庁警務局長

拓務 次官 殿
内閣書記官長 殿
外務 次官 殿
内務省警保局長 殿
指定庁庁長官 殿
關東軍參謀長 殿
關東憲兵隊長 殿
關東州駐在海軍武官 殿
奉天上海天津各總領事 殿
芝罘 領事 殿
張宗昌一行帰来

第四一号

貴電第一四九号ニ関シ

張宗昌ノ貴地渡航ニ対スル当方方針ハ大体客年十月二十九
日附關東長官宛外務大臣公信垂一機密第二二〇号ノ通ニシ
テ同人ニ於テ關東州ヲ根拠トシテ各地ニ往返シ其他政治的
策動ヲ行フコトナキ限リ上陸乃至滞在ヲ許シ差支ナキ意向
ナルカ一方同人ハ過去ニ於テ種々物議ヲ醸ス如キ行動ヲ繰
返セルモノニテモアリ其ノ動靜ハ充分御監視ノ上必要ノ取
締ヲ加ヘラレ度尚隨時当方ニ御通報ヲ煩度シ

代理公使北平奉天天津青島芝罘南京ニ転電セリ

(付記四)

本省 昭和6年6月8日後7時40分發
合第三二五号

別府滞在中ナリシ張宗昌ハ一行ト共ニ八日門司發「ハルビ
ン」丸ニテ大連ニ向ケ出發シタリ右ニ関シ關東庁警務局長
ヨリ亜細亜局長宛心得方問合アリタルヲ以テ別電合第三二
六号ノ通回電シ置キタリ

昭和四年二月山東省龍口ニ於テ兵ヲ起シ同月二十二日牟平
ノ戦ニ敗レ二十六日大連ニ亡命シ来レルモ上陸阻止ニ依リ
同日便船ニテ別府ニ亡命シ今日ニ及ヒタル元直魯聯軍總司
令張宗昌ハ爾来度々帰国再起ヲ伝ヘラレ居タルモ其ノ実現
ヲ見サリシカ本月十日午前十一時一行二十八名大連入港ノ
定期船はるびん丸ニテ帰来シ大連居住ノ元山東省長、林憲
祖、第四軍長方永昌、山東兵工廠總弁張國仁等多数旧部下
ノ出迎ヲ受ケ上陸後大連ニ家族ヲ有スル元山東省財政厅长
杜尚、元山東杜平県知事高明齊、參謀欒劍公ノ三名ヲ大連
ニ残シ別紙名簿ノ一行ト共ニ直ニ自動車ニ分乗シテ旅順市
博多町一番地居住ノ母堂ノ許ニ歸リタルカ同家ハ全部ノ家
族ヲ容ルルニハ狹隘ナル為近ク新市街中村町二番地前張宗
昌第一夫人ノ住宅ニ分住セムトノ意嚮ヲ有シ居レリ
尚帰国ニ関シテハ単ニ実母カ切ニ帰国同居ヲ希望シ居レル
ヲ以テ別府ヲ引揚ケ帰来シタルモノニシテ帰来ハ母堂ノ許
ニ有リテ孝養ニ勉メ時局ニハ全然關係セス閉居スル考ヘナ
リト語リ居レルモ最近中国ノ時局ハ廣東新国民政府樹立以
来全支ニ亘リテ反蔣宣伝ハレ再ヒ動乱ノ兆アリ之等反蔣
運動ノ成行如何ニ依リテハ再ヒ周囲ニ於ケル取巻連ノ策動

ト共ニ各種政治的軍事的宣伝ノ行ハルルナキヲ保シ難キヲ
以テ之カ動靜ニ付テハ注意ヲ怠ラサルヘシ

4 漢冶萍公司および南潯鐵道接管問題

819 昭和4年1月(15)日 在上海矢田總領事より
田中外務大臣宛(電報)

江西省政府が国民政府鐵道部に対し毎月三万
元補助金支出を認めたため南潯鐵道国有接管
實現の状況について

付記 昭和三年十二月十八日付東亞興業株式会社よ
り有田亜細亞局長宛外信第百七十八号
江西省南潯鐵道問題をめぐる最近の状況報告
上海 発
本省 1月15日後着

第四二号

貴電第一二号ニ関シ再電左ノ通

九江発本官宛電報

第二号

外務大臣へ電報アリタシ

第二号

客年十二月二十八日附機密第二二五号拙信末段記載南潯鉄

路国有移管問題ニ関シ今般南京鐵道部ヨリ省政府ニ対シ公
信ヲ以テ(イ)十八年一月分ヨリ同年十二月分ニ至ル迄江西省
政府收入中ヨリ毎月三萬元ヲ交通部ニ納付シ債務ノ償還ニ
当ツルコト(ロ)路股保息ハ交通部委員カ鐵路ヲ接管セル日ヨ
リ廃止並(ハ)右接管時日ハ未定ノ旨來報越アリ右ニ対シ省政
府ハ直ニ承認ノ旨回電セルモノラシク本月七日省政府財政
長ハ鐵路公司ニ対シ向後毎月三萬元補助金支出ノ旨公信ア
リタル趣ニテ鐵路ノ国有接管モ近々愈其ノ實現ヲ見ルヘク
新任局長トシテ前交通部派遣鐵路管理局副局長張遙東就任
ノ下馬評アリ
北京、上海、南京へ転電シ漢口へ暗送セリ

(付記)

外信第百七十八号

昭和三年十二月十八日

外務省

東亞興業株式会社

有田亜細亞局長殿

江西南潯鐵道借款ニ関スル件